

文部科学省研究開発学校

令和7年度 研究開発実施報告書

第二年次

研究開発課題

幼稚園教育要領における5領域の構成と要領上の用語の不一致が、小学校教師の幼児教育への理解を停滞させている一因と考える。そこで、領域の枠組みを資質・能力の観点から再編し、要領上の用語の整合性を図ることにより、幼小双方の教師の理解を促進し、幼小の接続を推進するカリキュラムと指導方法の研究開発を行う。

令和8年2月

神戸大学附属幼稚園 外9園

本報告書に記載されている内容は、教育課程の改善のために文部科学大臣の指定を受けて実施した実証的研究です。

したがって、この研究内容の全てが直ちに一般の学校における教育課程の編成・実施に適用できる性格のものでないことに留意してお読みください。

目 次

令和7年度研究開発実施報告書（要約）

1	研究開発課題	1
2	研究の概要	1
3	研究の目的と仮説等	1
	（1）研究仮説	1
	（2）教育課程の特例	2
4	研究内容	2
	（1）教育課程の内容	2
	（2）研究の経過	4
	（3）評価に関する取組	5
5	研究開発の成果	6
	（1）実施による効果	6
	（2）実施上の問題点と今後の課題	10
別紙1	神戸大学附属幼稚園 入園から修了までのねらい一覧	11
別紙2	学校等の概要	13

令和7年度研究開発実施報告書

1	研究開発課題	15
2	研究開発の概要	15
3	研究開発の経緯	17
	<一年次>	
	（1）本園の見出している資質・能力の見直し	18
	（2）文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園の見出している資質・能力との関係性を整理	18
	（3）新幼稚園教育要領（案）のねらいの枠組みを設定	19
	<二年次>	
	（1）本園の見出している資質・能力の見直しの継続	19
	（2）新たなねらいの枠組みによるカリキュラムの開発	19
	（3）研究協力の依頼、アンケート調査の準備	20
4	研究開発の内容	20
	（1）本園の見出している資質・能力の見直しによる新たなねらいの枠組みの再編	20
	（2）新たなねらいの枠組みによる教育課程の編成	25
	（3）編成した教育課程の内容の評価	28

○「思考に関わる資質・能力」の育ちの見取りの広がり	28
○資質・能力の具体のまとめり【感動・想像の表現】の資質・能力の具体の捉えを整理したことによる、ねらいや手立ての充実	29
○「多様性を見つめる」の捉えの深まりによる教育課程の充実	30
○尼崎市立幼稚園での神戸大学附属幼稚園の資質・能力を活用した実践による実践データの収集及び検証	30
○新たなねらいの枠組みによる満3歳児から5歳児のねらい一覧の作成への課題	31
5 研究開発の成果	31
(1) 子どもへの効果	31
a. 詳細な観点の資質・能力カリキュラムによる多様な資質・能力の発揮、伸長	31
b. ドキュメンテーションによる資質・能力の発揮、伸長	32
(2) 教師への効果	34
a. 子どもの姿の見取りの深まりからよりよい実践へ	34
b. 育みたい資質・能力の方向性を明確にした関わりへの意識の高まり	35
c. 3年間及び小学校以降の育ちの見通し、学びのつながりへの意識の高まり	36
d. 保護者等への発信力の高まり	38
(3) 保護者や地域社会への効果	39
a. 保護者による資質・能力を意識した子どもの見取りや関わり	39
b. 兵庫県内の幼児教育施設への研究協力依頼	40
6 今後の方向性と課題	40
【研究組織】	
(1) 研究組織の概要	42
(2) 研究担当者	43
(3) 運営指導委員会	43
別紙1 研究の概要図	44
別紙2 神戸大学附属幼稚園 カリキュラムにおける観点	45
別紙3 神戸大学附属幼稚園 入園から修了までのねらい一覧	46

令和7年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

幼稚園教育要領における5領域の構成と要領上の用語の不一致が、小学校教師の幼児教育への理解を停滞させている一因と考える。そこで、領域の枠組みを資質・能力の観点から再編し、要領上の用語の整合性を図ることにより、幼小双方の教師の理解を促進し、幼小の接続を推進するカリキュラムと指導方法の研究開発を行う。

2 研究の概要

幼児教育の独自性の担保に寄与してきた幼稚園教育要領の5領域の構成と幼小における要領上の用語の不一致は、資質・能力の考え方が普及する現在、幼児教育への理解を停滞させている一因と考える。

そこで、資質・能力の観点から領域の枠組みを再編し、用語の整合性を図ることで、幼小双方の教師、さらには社会一般の幼児教育への理解の深化に資する、新たなねらいの枠組みによるカリキュラムと指導方法の研究開発に取り組む。

具体的には、以下の取組を実施する。

- ①文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園が見出した資質・能力を整理することによる、5領域に替わる新たなねらいの枠組みの創設
- ②用語の整合性を図った上での、新たなねらいの枠組みによるカリキュラムの開発
- ③新たなねらいの枠組み又は開発したカリキュラムによる保育実践データの収集
- ④新たなねらいの枠組みを含む開発したカリキュラムの検証・評価
- ⑤子どもの追跡調査の実施及び検証

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究仮説

【手段】

具体的な研究開発の手段は以下のように考えている。

- ①文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園が見出した資質・能力を整理することによる、5領域に替わる新たなねらいの枠組みの創設

本園が平成12年度から歴史的、継続的に取り組んできた幼小中の連携によるカリキュラム研究により得られた知見を生かし、幼児教育と小学校の双方の教師が資質・能力を育む観点から見出した子どもの育ちを捉え支える資質・能力を見直し、文部科学省より示されている資質・能力を基にその整合性等を検討し、整理することにより、幼児教育と小学校の双方の教師にとって理解しやすい幼児教育における新たなねらいの枠組みを創設する。

- ②用語の整合性を図った上での、新たなねらいの枠組みによるカリキュラムの開発
- 幼児教育と小学校の双方の教師にとって理解しやすい用語を整理し、要領上の整合性を図った上で、新たなねらいの枠組みを採用したカリキュラムを開発する。

- ③新たなねらいの枠組み又は開発したカリキュラムによる保育実践データの収集

第2年次は新たなねらいの枠組み、第3、4年次は開発したカリキュラムによる実践を通した子どもの事実を基に作成した実践記録やドキュメンテーション、保育指導案等で実践データを研究開発学校実施園及び研究協力園において収集するとともに、子どもの学びの実態に着目しながら、資質・能力の発揮、伸長に有効な手立てを、根拠を明確にしながら検証する。その際、常に子どもの事実をこたわり、子どもが何を学んだかを見取することに主眼を置き、各教師個人による日々の省察、研

究グループによる省察及び全体での省察を行う。

④ 新たなねらいの枠組みを含む開発したカリキュラムの検証・評価

研究協力園も含めた保育実践に加え、これまで幼稚園年長児と小学校1年生との合同学習として、幼小の教師が共同で、幼稚園年長児と小学校1年生に同じねらいを設定し、学習の場を生み出してきている取組を、新たなねらいの枠組み又は開発したカリキュラムを踏まえて構想する。新たなねらいの枠組み又は開発したカリキュラムを試行的に架け橋期のカリキュラムに位置付け、幼稚園での学びや学び方、幼児教育における「環境を通して行う教育」の考え方を取り入れた上での実践を通して収集した実践データを基に、架け橋期のカリキュラム及び指導方法、新たなねらいの枠組みを含む開発したカリキュラムの妥当性を検証・評価する。

⑤ 子どもの追跡調査の実施及び検証

附属小学校との連携により幼小合同学習の実践データを継続して収集し、小学校1年生のうち、開発したカリキュラムによる保育実践を実施した本園を修了した子どもと外部から入学した子どもとのデータを比較・分析することにより、開発したカリキュラムの子どもの資質・能力の育成における効果を、科学的根拠を基に検証する。

【期待される具体的成果】

本研究開発による実践を通して、次のような成果が得られると考える。

- ① 幼児教育と小学校教育の接続や幼児期の資質・能力の育成を推進することに資する、幼児教育と小学校の双方の教師にとって理解しやすいカリキュラムの構造化や要領上の用語の整理を図ることができる。
- ② 架け橋期を含む子どもの資質・能力の育成に有効な指導方法が明らかとなり、具体的な教育実践が提案できる。
- ③ 幼小の教師が共同で学習の場を構想、実践することを通して、幼小における子どもの学びの見取り方や指導方法等の相互理解の深化が図れる。
- ④ 子どもの追跡調査により、開発したカリキュラムの子どもの資質・能力の育成における有効性について科学的根拠を基に証明できる。
- ⑤ 研究発表会等を通して、幼児教育と小学校教育の接続や子どもの資質・能力の育成の在り方について、地域の幼児教育及び小学校教育関係者との相互理解を促進するとともに、保護者の理解を深めるなど、より一層の連携・協力を推進することができる。

(2) 教育課程の特例

なし

4 研究内容

(1) 教育課程の内容

「人格に関わる資質・能力」と「知性に関わる資質・能力」から成る新たなねらいの枠組みにより、教育課程や指導計画（長期の指導計画、短期の指導計画、遊びや生活のまとまりとしての計画）を編成している。「神戸大学附属幼稚園 カリキュラムにおける観点」を次頁に示す。今年度の資質・能力の見直しにより、資質・能力の具体のまとまりを再構成する、資質・能力の具体を統合するなど、昨年度から改善している。

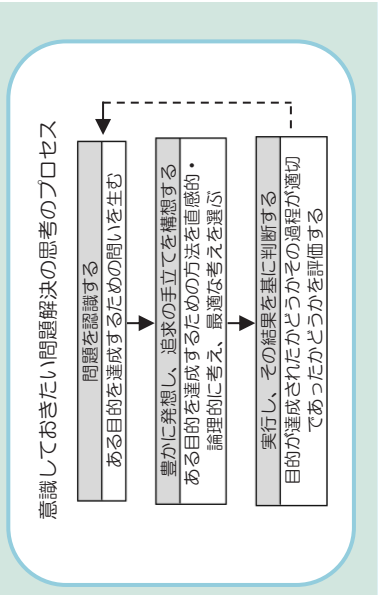
本年度は、資質・能力の見直しにより改善した資質・能力を観点にもった保育実践を並行して行い、教育課程や指導計画を見直し続けている。令和7年10月時点までの変更を反映させたものが、教育課程資料「神戸大学附属幼稚園 入園から修了までのねらい一覧（令和7年10月現在）」（別紙1）である。

神戸大学附属幼稚園 カリキュラムにおける観点（令和8年1月現在）

神戸大学附属幼稚園の資質・能力：生涯にわたってよりよく生きるために必要な心や体の働きであり、個別に取り出し育て育むものではなく、遊びや生活を通して総合的に育まれるものである。

神戸大学附属幼稚園の資質・能力	資質・能力の具体	方向性
思考に関する資質・能力	比較する	ものやことを具体物やイメージなどと照らし合わせ、観点をもち比べ、共通点や相違点を見付け出そうとする
	関連付ける	ものやことを、ある観点で共通点のあるものやことと結び付けようとする
	分類する	観点をもち、まとまりに分けようとする
	筋道立てる	この関係性を、筋を通して整理したり順序立てたりしようとする
	理由付ける	原因や理由、根拠を見付けたり、振り返って見出したりしようとする
	具体化する	ものやことをより具体的に捉えたり表したりしようとする
	抽象化する	ものやことを共通の特徴でまとめて捉えたり表したりしようとする
	焦点化する	目的に向けて、いろいろな要素から注目するところを絞り込もうとする
	多面的に見る	ものやことをいろいろな観点から捉えようとする
	批判的に考える	思考・判断に必要な考えや情報が確かかどうか確かめようとする
評価する	観点をもち、見聞きしたことや経験したことの自分の意見をもとにする	
総合する	複数の見聞きしたことや経験したこと、考えたことなどを基に、考えをまとめようとする	
推論する	見聞きしたことや経験したこと、考えたことなどの根拠を基にして予想しようとする	
発想する	目的に応じた新たな考えを思い付けたり生み出したりしようとする	

「思考に関する資質・能力」は、「人格に関する資質・能力」や「知性に関する資質・能力」と同時に発揮、伸長される。



神戸大学附属幼稚園の資質・能力	資質・能力の具体	方向性
人格に関する資質・能力	自ら決める・選ぶ	興味・関心をもちたり、目的や目標を定めたりして、好きになって関わったり、その実現に向けてやりの遂げようとする
	充実感を得る	自分の頑張りが成長、思いが実現したことに、嬉しさや満足感、達成感を感じる
	気持ちをコントロールする	よりよい方向に向けて、自分の気持ちに折り合いをつけようとする
	自分のことを知る	自分に意識を向け、自分の思いや状態、性格、言動の意味などに気付いたり、それを認めたり大切にしようとする
	他者という喜びを感じる	他者と関わる心地よさや嬉しさ、よさを感じて、つながりを大切にしようとする
	他者のことを知る	他者に関心をもち、思いや考え、個性を認めようとする
	自分のことを伝える	自分の思いや考えを伝えたいと思い、行動や言葉で伝えようとしたり、伝えることのよさを感じたりする
	他者のことを考えて行動する	他者に寄り添い、相手にとってよいと思うことをしようとする
	人と物事を進める	人と共通の目的や目標に向かって、自分ができることをしようとしたり、見通しをもつて必要なことを決めたり、互いの役割を認識しながら責任を果たそうとしたりする
	健康を保つ	健康の保持・増進に関心をもち、必要なことを考え、自分ができることをしようとする
知性に関する資質・能力	身を守る	自分の状態や周囲の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする
	体の動きや感覚を磨く	体の感覚や動きに意識を向け、諸感覚を豊かにしたり、体を動かす楽しさやいろいろな動きの感覚を味わったり、状況に応じた体の使い方をしようとしたりする
	自然環境を見つめる	空や雲、土、天体などの自然環境に関心をもち、その美しさや不思議さを感じたり、畏敬の念を抱いたりする
	生き物・命を見つめる	動植物など命あるものに関心をもち、その美しさや不思議さ、命の尊さを感じたり、大切にしようとしたりする
	事物・現象を捉える	身の回りのものや事象に好奇心を抱き、それらの性質や特徴、仕組み、ものやこと同士の関係性を感じたり、見出そうとしたり、捉えようとしたり、その面白さや不思議さを感じたりする
	数・量や形、空間を捉える	数・量や形、位置や向きなどの空間を感じて、関心をもつたり意識を向けたりし、それらに対する感覚を豊かにする
	場や状況を整える	場や状況に意識を向け、過ごしやすいように整えたり作り出したりしようとしたり、快適さや心地よさを感じたりする
	食を見つめる	食べることや食べ物を育てたり加工したりすることの楽しさを感じたり、様々な食材や料理に関心をもち、食べようとしたりいろいろな味を楽しんだりする
	資源の活用を見つめる	物や時間、労力などの限りのあるものに意識を向け、効率的で無駄のない使い方を考え、大切に扱おうとする
	社会とつながりをもつ	施設や働く人の役割、社会の仕組みや文化に関心をもち、自分の関わり方を考え、行動しようとする
【暮らしの創造】生活や文化、社会に意識を向け、暮らしを豊かにしていくために、考え、行動しようとする	多様な外見や性別、文化や価値観などに関心をもち、理解を深めたり認めたりしようとする	色や形に表す
	色や形に表す	色や形、質感、それらによって表されたものを思いのままに感じたり、そこから想像を膨らませたり、色や形、質感によって表す楽しさを感じたりする
	音に表す	音によって表されたものを思いのままに感じたり、そこから想像を膨らませたり、音によって表す楽しさを感じたりする
	言葉に表す	言葉や記号、言葉のつなぎ方、使い方を豊かに獲得して使ったり、言葉を用いて考えたり、言葉によって表されたものを思いのままに感じたり、そこから想像を膨らませたり、言葉によって表す楽しさを感じたりする
	体や動きに表す	動作や表情、声の調子などによって表されたものを思いのままに感じたり、そこから想像を膨らませたり、動作や表情、声の調子などによって表す楽しさを感じたりする
	演出・構成する	設定や展開を思いのままに感じたり、そこから想像を膨らませたり、色や形・音・言葉・体や動きによって表されたものや設定、展開が効果的に生かされているのを感じたり、表したり実現したりしたいのことに応じてそれらを効果的に活用する楽しさを感じたりする
	【感動・想像の表現】思いやイメージが表されているものから思いを感じ取ったり、イメージを膨らませたり、自分を表すことを楽しんだりしながら、感性や創造性を豊かにする	

(2) 研究の経過

	実施内容等
第一 年次	<p>第一年次は、56回の園内研究会、7回の拡大研究会、2回の運営指導委員会を実施、以下の研究を実施した。</p> <p>1 本園の見出している資質・能力の見直し これまでの保育実践やカリキュラム・マネジメントによる集積データを基に、本園の見出している資質・能力について名称や定義、捉え方等を見直した。</p> <p>2 文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園の見出している資質・能力との関係性を整理 文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園の見出している資質・能力との関係性を整理した結果、「学びに向かう力、人間性等」と本園の見出している「人格形成の基礎となる資質・能力」、「知識及び技能の基礎」と本園の見出している「知性につながる資質・能力」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」と本園の見出している「思考力」は「同等」とであると考えた。ただし、「学びに向かう力、人間性等」、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」は、重なりをもって示されており、関係性は明確にされていないが、本園の見出している「人格形成の基礎となる資質・能力」、「知性につながる資質・能力」、「思考力」の関係性は、「人格形成の基礎となる資質・能力」と「知性につながる資質・能力」には重なりはなく、「思考力」は「人格形成の基礎となる資質・能力」及び「知性につながる資質・能力」と重なっており、切り離して捉えることはできないと考えた。</p> <p>3 新幼稚園教育要領（案）のねらいの枠組みを設定 このように再整理した資質・能力を基に、幼児期の資質・能力を育む観点から、子どもの見取りやねらいの設定に有効と考える「ねらいの枠組み」を検討した結果、「思考力」と設定している10の資質・能力については、9の「人格形成の基礎となる資質・能力」22の「知性につながる資質・能力」、計31から成るねらいの枠組みの中に設定していく考え方が理解しやすいと考える。</p>
第二 年次	<p>第二年次は、43回の園内研究会、6回の拡大研究会、2回の運営指導委員会を実施、以下の研究を実施した。（令和8年1月31日時点）</p> <p>1 本園の見出している資質・能力の見直しの継続 第一年次に、これまでの実践や文部科学省の示す資質・能力との関係性の整理を受けて見直した本園で見出している資質・能力について、幼児期の実態に合った、広く一般に分かりやすい表現にするという観点や、子どもの姿や実践に表れているが明確に位置付けることができている資質・能力がないかという観点等から、さらに見直しを継続した。</p> <p>◆資質・能力の考え方についての再整理及び表記の変更 神戸大学附属幼稚園の資質・能力の見直しを継続していく中で、文部科学省の示す資質・能力との関係性や整合性の整理を進めると同時に、本園の見出している資質・能力の示し方について、幼児期の実態に合った、一般に分かりやすい表現となるよう検討、改善を続け、資質・能力の捉えを明示したり、「資質・能力の具体」と項目を変更したりし、「神戸大学附属幼稚園 カリキュラムの観点」にまとめた。</p> <p>◆「思考力」を見直し、捉えを広げ、「思考に関わる資質・能力」と捉え直す これまで「思考力」としていた資質・能力について、幼児期の実態に合った内容や表現になっているのか、一般に思考力の捉えは広いが網羅できているのかなどと上っていた課題について検討を進めるとともに、幼児期には、考える意欲や態度、姿勢の育成も重要であると捉え直したことから、「思考に関わる資質・能力」と位置付け、「方向性」の表現も同様に見直した。</p> <p>◆「知性に関わる資質・能力」の【資質・能力の具体のまとめ】を再構成する 知性に関わる資質・能力について、資質・能力の具体を捉えていく時に、資質・能力の方向性としてまとめがある方が捉えやすいと考え、資質・能力の具体を一つ一つ見直しながら、整理、分類し、【健やかな身体】、【ものへの感覚・探究】、【暮らしの創造】、【感動・想像の表現】の4のまとめとして置いた。</p>

	<p>◆資質・能力の具体を再構成する すべての資質・能力の具体について、捉えや方向性の表し方を検討し、関心を寄せる姿や、意欲や態度といった資質面が表せているか、幼児期の実態に合った表現になっているか、位置付いていない資質・能力がないか、重複している捉えはないかなど丁寧に見直しを行い、統合したり整理したり、方向性の言葉を修正したりした。</p> <p>以上の本園で見出している資質・能力の見直しを踏まえ、幼児期の資質・能力を育む観点から、子どもの見取りやねらいの設定に有効と考える「ねらいの枠組み」は、9の「人格に関わる資質・能力」と17の「知性に関わる資質・能力」の計26とした。本園の教育課程資料「神戸大学附属幼稚園 入園から修了までのねらい一覧（令和7年10月現在）」（別紙1）もこの枠組みで構成している。14の「思考に関わる資質・能力」は、これら26の資質・能力のねらいの言葉に含み込み、「人格に関わる資質・能力」及び「知性に関わる資質・能力」と同時に発揮、伸長することを支えていくものであると整理し直した。</p> <p>2 新たなねらいの枠組みによるカリキュラムの開発 本園の見出している資質・能力についての見直しを踏まえ、「入園から修了までのねらい一覧」を基に編成した教育課程（長期・短期の指導計画、遊びや生活のまとまりとしての計画、5歳（年長）・6歳（一年生）合同単元学習展開案等）を見直し、実践、さらに改善を進めている。</p> <p>また、見直した本園の教育課程を基に、新たなねらいの枠組みによるねらいを、広く一般に分かりやすく実践に活用しやすい形にまとめようと検討を進めている。その際、資質・能力の具体毎に、満3歳児から5歳児までの育ちの様相を示すことができ、かつ、学年毎の到達目標であると誤解されないように、ねらいの積み重ねが分かる層の形で表し、変化した部分が一目でわかりやすいように下線を引く工夫を行っているところである。</p> <p>3 研究協力の依頼、アンケート調査の準備 兵庫県下の市町や幼児教育施設に、本研究開発の説明と研究協力の依頼を行った。開発したカリキュラムを実践に取り入れ、アンケートに回答することに対し、兵庫県下等で多くの承諾を得られている。新たなねらいの枠組みによるカリキュラムやその考え方の効果を検証するため、研究協力園に回答いただくアンケート項目を検討し、作成した。</p>
--	---

(3) 評価に関する取組

	評価方法等
第一 年次	<p>1 第1回運営指導委員会を開催し、4年間の研究計画について指導・助言を受けた 指導・助言いただいたことは以下の事項についてである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領の考え方、捉え方を踏まえること ・神戸大学附属幼稚園の資質・能力における、まとまりや定義、関係性の精査 <p>2 実践事例作成・検討による子どもの学び及び教師の手立ての評価 実践事例の作成や職員間での事例検討により、より詳細で具体的な振り返りを行い、子どもが資質・能力を発揮、伸長する姿の丁寧な捉えや、教師の手立ての有効性の確認と改善を行っている。</p> <p>3 第2回運営指導委員会を開催し、第一年次の研究成果についての評価及び第二年次の研究の方向性について指導・助言を受けた 指導・助言いただいたことは以下の事項についてである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育において、プロセス（関心・感覚）が大切である ・将来を急がずにその年齢なりの姿が捉えられる資質・能力名や資質・能力の定義の表し方を探る ・詳細な観点の資質・能力が関連しながら総合的に育まれるという前提とともに表す

第二 年次	<p>1 第1回運営指導委員会を開催し、第二年次の研究計画について指導・助言を受けた 指導・助言いただいたことは以下の事項についてである。 ・神戸大学附属幼稚園の資質・能力が、幼児期の実態により合った、より一般に分かりやすい表現で示されること</p> <p>2 実践データの収集及び新たなねらいの枠組みの検証 本園と尼崎市立幼稚園において、新たなねらいの枠組みの妥当性の検証に向け、新たなねらいの枠組みによる実践を行い、実践データの収集を進めている。本園では、指導計画や実践後の振り返り（ドキュメンテーションや実践事例作成）の変化等から、検証を行った。尼崎市立幼稚園においては、新たなねらいの枠組みによる指導計画の作成、実践事例やドキュメンテーションの作成及び検討を行っている。 さらに、幼稚園年長児と小学校1年生との合同学習においても、小学校教員とともに同様に妥当性の検証に向け、データの収集を進めている。</p> <p>3 第2回運営指導委員会を開催し、第二年次の研究成果についての評価及び第三年次の研究の方向性について指導・助言を受けた 指導・助言いただいたことは以下の事項についてである。 ・新しいねらいの枠組みで示すねらいの示し方が到達目標に誤解されないように配慮する ・要領に示されていることが、神戸大学附属幼稚園の資質・能力に含み込まれていることを確認し、示し方等の工夫を講じる</p>
----------	--

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果 (具体的な根拠は一部のみ掲載している。詳細は令和7年度実施報告書参照)

○子どもへの効果

a. 詳細な観点の資質・能力カリキュラムによる多様な資質・能力の発揮、伸長

ドキュメンテーションでまとめた学びの記述や、実践記録における子どもの学び等の記述から、資質・能力を発揮、伸長している育ちを捉えることができる。

< 第一年次 >

資質・能力の発揮、伸長に効果が見られたが、特に、資質・能力の捉えを大きく見直した「自分のことを知る」の資質・能力について、教師がより意識して子どもの姿を見取ったり、子どもの姿を基にねらいをもち実践に当たったり、実践の省察を行い、3年間を見通してねらいや関わりを検討したりするなどしたことから、子どもへの効果が大きかったと考える。

< 第二年次 >

資質・能力の捉えを広げたり整理したりした「多様性を見つめる」、「文芸に表す」、「演出・構成する」の資質・能力について、特に効果が大きかった。

< 第二年次 > (一部抜粋)

・「多様性を見つめる」の観点を明確にもち、多様性に向き合う機会を意識的に作ったことで、子ども達は「そういう人もいるんだよ」と受け止めたり、自分とは異なる行動をとる友達に対しても「〇〇くんはそうしたい気持ちだったんじゃない？」と解釈したりする姿が見られるようになってきている。子ども達が違いを否定的に捉えるのではなく、多様な在り方として肯定的に受け止め、認めようとする態度が育まれてきていることがうかがえる。

また、地域の保育者の研修の場として実施している幼児教育を考える研究会において、参加者には、指定した遊び(各学年から三つ程度)を参観し、本園の見出している資質・能力の観点で見取った学びを「学びのカード」に記入してもらい、協議を行っている。参観者の書いた学びのカードには、多様な資質・能力の育ちが見取られていた。これは、本園の子どもに多様な資質・能力が育っていると、外部の保育者からも評価されていると言えるだろう。

< 第二年次 > (第一年次の詳細は、令和7年度実施報告書参照。)

本園の見出している資質・能力40のうち、25の資質・能力について、参観者が学びと捉えた子どもの姿の見取りがある。

b. ドキュメンテーションによる資質・能力の発揮、伸長

ドキュメンテーションの掲示や、子どもとともに作り、遊びの過程を書き表していくドキュメンテーションの活用による、子どもの育ちが認められている。

< 第一年次 >

「自ら決める・選ぶ」、「自分に満足する」、「他者のことを知る」、「生き物・命を見つめる」等の資質・能力の発揮、伸長が確かめられた。

< 第二年次 >

一年次と同様に「自ら決める・選ぶ」、「充実感を得る」、「他者のことを知る」の資質・能力への効果が大きいことが認められており、さらに「自分のことを知る」の資質・能力の発揮、伸長への効果も認められた。

< 第二年次 > (一部抜粋)

・ドキュメンテーションを子どもたちの目に触れる場所に掲示することで、園外保育で楽しかった出来事を振り返ったり、運動会で自分が頑張ったことを改めて実感したりする姿が見られた。

共に研究開発を進める尼崎市立幼稚園においても、ドキュメンテーションの掲示や教師の関わり、また、様々な視点をもって保育を行うことによる、子どもへの効果が挙げられた。

< 第二年次 > (一部抜粋)

・ドキュメンテーションに『神戸大学附属幼稚園 カリキュラムにおける観点』を活用することで、教師が支えたい育ちにポイントを置いた写真を意識して選び言語化（文字で記載、言葉で伝える）することになり、幼児が自覚していない無意識的なことのよさや身体を動かすコツなど、視覚を通して自覚するきっかけになっている。

○教師への効果

a. 子どもの姿の見取りの深まりからよりよい実践へ

詳細で具体的な資質・能力の観点をもち、保育を計画したり実践記録やドキュメンテーションで言語化しながら保育を振り返ったりすることを通して、子どもにどんな資質・能力が育まれているのかを詳細に見取る力が高まっている。また、資質・能力の捉えの見直しを丁寧にしたことで、詳細で多様な資質・能力の具体の一つ一つの捉えが明確になり、ねらいや援助、環境の構成を明確にした実践や総合的な指導を行うことができている。

< 第一年次 >

特に「自分のことを知る」の資質・能力を発揮、伸長する姿の見取りや3年間を通したねらいや手立てのあり方について、事例検討やカリキュラム・マネジメントで明らかにし共有することができた。また、10の「思考力」の資質・能力に対しては、「人格形成の基礎となる資質・能力」及び「知性につながる資質・能力」のねらいに含み込んで育もうとしているものと、まだ十分に表すことができていない部分やねらいとして意識できていなかった部分があることが明らかになり、思考力の資質・能力の見取りやねらいのもち方を見直すことへの意識が高まっている。

< 第二年次 >

「思考に関わる資質・能力」の捉えや関係性が整理されたことにより、「思考に関わる資質・能力」の見取りの深まりや援助が広がり、さらに、「問題解決力」を問題解決の思考のプロセスと捉え直したことにより、問題を認識できるようにすること自体を目的として行動を引き出そうとする関わりから、問題を認識する過程における思考の質を高め、担保しようとする関わりへと、教師の意識と実践が転換しつつある。問題解決の場面において、子どもの思考の過程や質に着目した援助が増加しており、「思考に関わる資質・能力」の着実な育成につながっている。

新規採用教員も含め、本年度からこのカリキュラムの視点で保育を始めた教員からも、詳細な観点の資質・能力を検討したり、活用して計画を立てたり見取ったりすることによる自身の幼児理解や援助への効果が挙げられており、次年度から広く県下の幼児教育施設で活用いただくに当たっても効果が期待できると考える。

< 第二年次 > (一部抜粋)

・保育を計画するにあたり、「思考に関わる資質・能力」についても深く考えるようになり、遊びの環境を振り返る際や計画をする際に、「思考に関わる資質・能力」が発揮、伸長されるしかけが環境の中に存在させられているかという視点で確認するようになった。また、「思考に関わる資質・能力」を育む関わり方を事前に想定するようになった。

b. 育みたい資質・能力の方向性を明確にした関わりへの意識の高まり

教師の援助や環境の構成及び再構成を、育みたい資質・能力の方向性を明確にした意図と行為をセットにして指導計画に表すことや、実践事例の作成や検討で自分の行った関わりの意図を言語化し振り返ることを続けることで、普段から、子どもにどの資質・能力の方向での育ちを願って関わるかを明確にして関わろうとしている。さらに、多様で詳細な資質・能力の観点をもっていることで、子どもの遊びや思いの変化に、見通しをもち、余裕をもって保育に臨めるよさも感じられている。

< 第二年次 > (一部抜粋)

・実践事例の作成を通して、自分の関わりを振り返り、自分の発言が子どもの学びを支えられていたのか、言い方や関わりを変えた方が意図することにつながったのではないかと自身の保育を見直す機会になっている。

c. 3年間及び小学校以降の学びの見通し、学びのつながりへの意識の高まり

教育課程や長期の指導計画及び遊びや生活のまとまりとしての計画を基に保育を計画したり振り返ったりすることや、毎学期末にカリキュラム・マネジメントを行うことで、3年間の学びのつながりを意識することができている。また、小学校の教師と共通の観点で指導計画を作成し、実践、見取り、振り返りを行うことで、小学校教育とのつながりをより具体的に知ることができている。

< 第一年次 >

月の指導計画に加え、子どもに経験させたいことを遊びや生活ごとに整理した遊びや生活の見通し案を作成したことで、3年間の経験や学びのつながりを明確にし、その時期に必要な関わりを見直すことができた。また、文部科学省の三つの資質・能力への理解を深める中で、小学校以降の資質・能力の捉え方や評価の仕方、思考力の育ちについて考えることとなり、小学校以降の資質・能力の育ちへの意識も高まった。

< 第二年次 >

丁寧に資質・能力の捉えの見直しを行ったことが、遊びや生活のまとまりとしての計画やカリキュラム・マネジメントにおいて、3年間の学びのつながりや育ちの見通しをもつことにもつながっている。また、小学校教諭と共通の観点で実践や振り返りを共にすることで、小学校以降の学びや教師の関わりについて具体的に話し合うことができている。その中で、子どもの姿をより詳細に見ようとする小学校教諭の意識が高まっていると感じる一方で、詳細な観点毎にねらいをもち、対応して援助を考えていくことを初めて行う教師にとって、丁寧に分けて見取ったり、援助を考えたりすることは、容易なことではなく、共に協議・実践しながら共有していく必要があるとも感じている。今後、小学校教諭の感じている効果についても調査を行っていく。

< 第二年次 > (一部抜粋)

・5・6歳実践の指導案を作成する際、資質・能力毎にねらいを詳細に設定することで、保育(学習)の中で見られる子どもの具体的な姿を予想したり、その育ちの可能性や必要な環境の構成について検討したりすることができ、教員間で共有しやすかった。一方で、ねらいや援助等を記入する際、複数の資質・能力の観点に捉えられる複合的な表現の仕方をされることがあり、どの観点として整理するかを共有することの難しさも感じた。

d. 保護者等への発信力の高まり

詳細な資質・能力の観点での子どもの見取りを言語化したり、教師の関わりを意図と行為をセットで言語化したりすること、また、言語化された事例等を基に職員で検討することを通して、子どもの学びや学びの過程、教師が大切にしていることを発信する力が高まっている。

＜第二年次＞（一部抜粋）

・参観や日々の降園連絡だけでは伝わりにくい子どもの姿や育ち、教師の関わりや意図、環境の構成、遊びがどのように深まっていくのかという過程を、ドキュメンテーションで可視化することができた。

共に研究開発を進める尼崎市立幼稚園において、教師の意識、援助や環境の工夫、園内の話し合いで教師への効果が感じられている。

＜第二年次＞（一部抜粋）

・指導案、週案、事例を書く際にカリキュラムの観点をうけてきたことで、幼児の遊びや活動の中で当初捉えていた以外にも学びにつながる資質・能力があることに気付けるようになった。また、子どもの解決したい思いを支える時に複数の資質・能力が考えられるようになるなど、教師がどういう資質・能力を意識するのか、幼児と相対する時に整理して対応することができるようになった。

○保護者や地域社会への効果

a. 保護者による資質・能力を意識した子どもの見取りや関わり

保護者に対しては、子どもの具体的な資質・能力の育ちをドキュメンテーションで発信したり、本園で見出している資質・能力の観点による教育課程を基に子どもの実態やねらいを共有したり、具体的なねらいを示して保育参観や保育参加に取り組んでもらったりしている。それらの感想の中には、本園の見出している資質・能力の観点で子どもの成長を捉えている保護者や、具体的に多様な観点から子どもの姿を捉えている保護者が見られている。

＜第二年次＞（一部抜粋）

・資質・能力カリキュラムを基にした保育における意図を、保護者の方と共有して園外保育やこま回しといった保育参加を実施することで、保護者が具体的なねらいをもった言葉かけをしたり、子どもの姿から育ちを感じ取ったり、教師と同じ方向で関わろうとしたりする意識が高まっている。

また、年度末に保護者に対して行う学校評価アンケートにおける「園は、指導方針や教育活動のねらい、子どもの実態をわかりやすく伝えている」かの問いに対し、詳細な観点でのねらいや意図を明確にした関わりへの評価を得られていると考えている。

＜第二年次＞（第一年次の詳細は、令和7年度実施報告書参照。）

・令和6年度の回答に「常にねらいや方針をドキュメンテーションに載せてもらっているので分かりやすく、家庭での関わりに生かそうと思う」、「園にお任せではなく、家庭としてサポートする位置が分かり、園と伴走して子どもに関わる意識がもてている」、「参観などの際の子どもの見る視点の参考にとてもなり、成長を把握できるようになった」と肯定的な記述が多く見られる。

資質・能力の見直しを丁寧に継続していたため、現在取り組んでいる研究課題及び内容について、本園の保護者に示し理解と協力を得られるような働きかけや調査については、本年度は実施には至っておらず、数値での効果の検証はできていない状況である。

共に研究開発を進める尼崎市立幼稚園において、保護者の子どもの育ちへの理解が深まる効果が感じられている。

＜第二年次＞（一部抜粋）

・『資質・能力とは生涯にわたってよりよく生きるために必要な心や体の働きについて、遊びや生活を通して総合的に育まれるものである』ということを伝えた上で、保育参観などの際に保育を見て幼児の育っていることについて保護者にメモをとってもらい保護者と話し合いをする機会をもっている。その際に園から幼児が今興味をもっていることや、学んでいることを資質・能力別に基づいて、多面的に伝えることで、保護者が我が子の育ちを具体的に知ることに繋がってきている。

b. 兵庫県内の幼児教育施設への研究協力依頼

研究協力園として協力を得るために重要なことは、本研究開発の意義についての理解を得るとともに、研究協力園としての取組自身が現場の先生方に大きな負担を

かけることなく、資質・能力への理解を深め、保育の発信力を高める研修として取り組んでもらえるという利点についての理解を得ることであると考え、依頼を行い、協力について多くの承諾を得られてきている。

＜第一年次＞

実際に研究協力を得るためには、概ね次の3段階を経ることが必要であることが見えてきた。まず、第1段階は、教育委員会等各市町の幼児教育施設を所管する行政機関に、園長会、園所長会等各幼児教育施設の管理職が集まる会において話をさせてもらう機会を得るための理解を得る。次に、第2段階として、園長会、園所長会等各幼児教育施設の管理職が集まる会において、担任等実際に保育に従事している教諭、保育教諭、保育士に話をさせてもらう機会を得るための理解を得る。さらに、第3段階として、担任等実際に保育に従事している教諭、保育教諭、保育士に直接参画を呼びかける。一年次、第1段階は全て終え、第2段階についても約半分程度終えている。

＜第二年次＞

二年次には、第2段階で残っている市町の幼児教育施設の管理職の理解を得るとともに、担任等実際に保育に従事している教諭、保育教諭、保育士に話をさせてもらい、参画を呼びかけている。この段階まで進むと、管理職の理解を得られており、具体的な活用の仕方が、自分自身の資質向上に役立つと感じてもらえており、前向きに受け止めてもらえている。第2段階は全て終え、第3段階についても、7割程度終えている。三年次には、第3段階が未実施の市町に働きかけ、参画を呼びかけるとともに、必要に応じて追加の研修を実施する予定である。

（2）実施上の問題点と今後の課題

開発したカリキュラムについて、広く一般の保育者に分かりやすいように、満3歳児から5歳児までの資質・能力毎のねらい一覧を完成させ、さらに、「思考に関わる資質・能力」との関連を示す。また、幼稚園教育要領で示されているねらい及び内容や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を示すなど、理解や活用が広がる工夫を行っていく。

開発したカリキュラムによる保育実践を行い、実践データを収集するとともに、資質・能力の発揮、伸長に有効な手立てを、根拠を明らかにしながら集積する。収集、検証された資質・能力の発揮、伸長に有効な手立ての示し方の検討や手立ての整理を進めると同時に、開発したカリキュラムの妥当性について検証する。開発したカリキュラムの検証については、小学校教員へのアンケートを実施し、小学校教員にとっての理解しやすさを実現しているかについても検証する。さらに、研究協力園へのアンケート調査を実施し、開発したカリキュラム活用による教師や子どもへの効果について検証する。

令和7年度 神戸大学附属幼稚園 入園から修了までのねらい一覧 (No.1) 令和7年10月現在

資質・能力の具現のままとり	3歳児												4歳児												5歳児																								
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3																
自分の生き方	自ら決め・選ぶ	したいと思った、好きなことを選んだり、したいと思ったことをしたりする												好きなことやしたいことを意識して、選んだりしたりする												できるようになり、上手になり、こうしたいなどの具体的な目的をもって考えたり試したりして、何度も繰り返す												できるようになり、上手になり、こうしたいなどの具体的な目的をもって考えたり試したりして、何度も繰り返す											
	充実感を得る	したいことや必要なことができて、嬉しいと思う												したいことや必要なことができて、嬉しいと思う												したいことができて、できるようになり、自分の考えのよさを感じたりして、嬉しいと思ったり、自信をもったりする												思いが実現したことや少しずつできるようになってきていること、自分の頑張りのよさを感じたりして、嬉しいと思ったり、自信をもったりする											
	気持ちをコントロールする	先生に手伝ってもらって、自分の気持ちを落ち着かせようとする												自分なりの方法で、自分の気持ちを落ち着かせようとする												人の気持ちを聞いたり周りの状況を知らされたりして、気持ちを落ち着けたり、折り合いをつけたりしようとする												人の気持ちを聞いたり周りの状況を知らされたりして、気持ちを落ち着けたり、折り合いをつけたりしようとする											
	自分のことを知る	先生に尋ねられたり知らされたりして、自分の好きなことや気持ちに気付いたり、自分の成長や頑張りを感したりする												前からの変化から、自分の成長に気付いたり自分の頑張りを感したり、先生や友達に尋ねられたり知らされたりして、自分の気持ちや考え、言動や状態を、振り返りや気付いたりする												友達や先生に言葉にしてもらったり認めってもらったりして、成長や頑張りを、気持ちや考え、自分の言動やその意味、状態、個性などを、振り返りや気付いたりする												友達や先生に言葉にしてもらったり認めってもらったりして、自分で振り返りや認めたりして、成長や頑張りを、気持ちや考え、言動やその意味、状態、個性、向き合いなどを、自覚したり認めたり大切にしたりしようとする											
人とのつながり	他者という喜びを感じる	先生や友達に親しみをもったり、一緒にいる心地よさや触れられたり嬉しさを感したりする												気の合う友達や今まであまりかわりなかった友達と一緒にいる心地よさや話したり嬉しさを感したりする												気の合う友達や今まであまりかわりなかった友達と一緒にいる心地よさや話したり嬉しさを感したりする												いろいろな人と一緒に遊んだり生活したりする嬉しさを感したりする											
	他者のことを知る	近くにいる先生や友達の存在を感じたり、知ろうとしたりする												気になる友達や先生のことを知ろうとしたり、友達や先生の話などを知り、いろいろな友達の個性に気付いたりする												いろいろな友達の気持ちや考えを知ろうとしたり、いろいろな友達の個性に気付いたり、年長児を身近に感したりする												いろいろな友達の気持ちや考えを知ろうとしたり、いろいろな友達の個性に気付いたり、年長児の優しさを感したりする											
	自分のことを伝える	先生や友達にしたいことやしてほしいこと、自分の気持ちを、行動や言葉で伝える												友達に自分の気持ちを言葉や行動で伝えようとして、先生や友達に自分の話をしようとして、伝えることのよさを感じる												友達に自分の気持ちを言葉や行動で伝えようとして、先生や友達に自分の話をしようとして、伝えることのよさを感じる												友達に自分の気持ちを言葉や行動で伝えようとして、先生や友達に自分の話をしようとして、伝えることのよさを感じる											
	他者のことを考えて行動する	先生や友達の様子を気にする												友達の様子を見たり、話を聞いたりして、笑いかける												友達の様子を見たり、話を聞いたりして、してあげたいと思うことをしようとする												自分がかかわればよいのかを考えて、友達のためになることをしようとする											
	人と物事を進める													友達と同じことやすべきことに向けて、思いついたことをしようとして、友達の考えを聞いて自分のすることをしようとする												友達と同じことやすべきことに向けて、思いついたことをしようとして、友達の考えを聞いて自分のすることをしようとする												友達と同じことやすべきことに向けて、思いついたことをしようとして、友達の考えを聞いて自分のすることをしようとする											
健やかな身体	健康を保つ	健康に過ごすためにしたほうがいいこと、なせなければならぬことを知り、しようとして、自分の体に興味をもったりする												健康に過ごすためにしたほうがいいこと、なせなければならぬことを知り、しようとして、自分の体に興味をもったりする												健康に過ごすために必要なことと必要理由を知り、丁寧にしようとする												健康に過ごすために必要なことと必要理由を知り、丁寧にしようとする											
	身を守る	初めに出会う環境の中で、どうするに危険な状況になるかを知り、危険な状況に気づき、その通りにしようとする												どうするに危険な状況になるかを知り、危険な状況に気づき、その通りにしようとする												どうするに危険な状況になるかを知り、危険な状況に気づき、その通りにしようとする												どうするに危険な状況になるかを知り、危険な状況に気づき、その通りにしようとする											
	体の動きや感覚を磨く	道具を使う中で、いろいろな体の動かし方や使い方を、心地よさを味わう												いろいろな道具や遊具で遊ぶ中で、道具を使う時の体の動かし方や使い方を、心地よさを味わう												新しい道具や遊具で遊んだり、いろいろな遊びをする中で、自分の体を動かすことを楽しんだり、友達の動きや遊具、棒や縄や空間、地形に対応した体の動かし方や使い方を試したり、体で覚えたりしようとする												道具や遊具で遊んだり、いろいろな遊びをする中で、自分の体を動かすことを楽しんだり、友達の動きや遊具、棒や縄や空間、地形に対応した体の動かし方や使い方を試したり、体で覚えたりしようとする											
		遊びや生活をする中で、体の諸感覚を働かせて様々な感覚を感じたり感じ分けたりする																																															
ものの探究	自然環境を見つめる	身近な自然環境に触れ、興味・関心をもったり、好奇心をいだいたり、驚き、面白さ、美しさ、不思議さ、心地よさ、厳しさを感じたりする																																															
	生き物・命を見つめる	身近な動物や植物を見たり触ったりして、色や大きさ、姿の変化に驚いたり、愛らしさを感じたり、世話の仕方を知り、世話をしてみようとする																																				身近な動物や植物を見たり触ったりして、色や大きさ、姿の変化に驚いたり、愛らしさを感じたり、世話の仕方を知り、動物の気持ちや命に責任をもつて大切に世話しようとする											
	事物・現象を捉える	身の回りのものを五感で感じたり、使ったり、使って遊んだりする中で、そのものの性質を感じて楽しんだり、面白かったり、驚いたり、遊ばせようとする																																				したことや使ったものによって、もの様子が違うことに驚いたり、面白かったりして、何度もしようとする											
	数・量や形・空間を捉える	数・量(数、長さ、重さ、大きさ)の多い少ないを感じたり、ものと対応させて数えたりして、数・量に親しむ												数えたり並べたりはったりして比べ、数・量(数、長さ、重さ、大きさ)の多少を感じる												数・量(数、長さ、重さ、大きさ)の多少や速さを捉えたり、まとめで捉えたり、操作したりしようとする												数・量(数、長さ、重さ、大きさ)の多少や速さを捉えたり、まとめで捉えたり、操作したりしようとする											
		形の面白さを感じたり、いろいろな形に親しんだりする												いろいろな形に親しみ、比べたり組み合わせたりしながら、形の特徴を感で捉える												高さ、広さ、距離、位置を感で捉えようとする												高さ、広さ、距離、位置を感で捉えたり、操作したりしようとする											
	高さ、広さ、距離、位置を感で捉える																																																

令和7年度 神戸大学附属幼稚園 入園から修了までのねらい一覧 (No.2) 令和7年10月現在

		3歳児										4歳児										5歳児												
		4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
育 い の 育 活	資質・能力の 具 体 の ま と り	資質・能力の 具 体																																
	場や状況 を整える	自分の周りが気持ちよく使いやすいようになる物の 始末の仕方を感じたり、手伝ってもらって の、自分でしようとする																																
	食を 見 つ め る	いろいろな食材に興味をもったり、幼稚園で先 生や友達、お家の人とおやつや弁当を食 べたり、収穫した野菜を家に持って帰って食 べたり、自分で手を加えて食べられるように したり、いろいろな食べ物を喜んで食べよう とする																																
	資源の 活 用 を 見 つ め る	見たり、聞いたり、教えてもらったりして、無 駄になることはもったいないと感じ、大切に しようとする																																
	社会と つ な が り を も つ	幼稚園や園外保育先の施設、そこにある物や そこで使う物に興味・関心をもち、みな の物であることとそれぞれの使い方の理由を 知る																																
感 動 ・ 想 像 の 表 現	多様性 を 見 つ め る	身近な伝統行事に触れ、いろいろな行事があ ることを知る																																
	色や形に 表 す	身近な伝統行事や祝祭日、地球や海外の文 化などに触れ、いろいろな行事や文化があ ることを知る																																
	音に表 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、日本の高 齢や生活の節目を感じたり、地球や海外の 文化などに触れ、その違いを感じたり、面 白いと思ったり、大切にしようとする																																
	言葉に表 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、いろいろな 行事や祝祭日があることを知る																																
	体や動き に表 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、いろいろな 行事や祝祭日があることを知る																																
演出・ 構 成 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、いろいろな 行事や祝祭日があることを知る																																	
資質・能力 の 具 体 の ま と り	資質・能力の 具 体																																	
場や状況 を整える	自分の周りが気持ちよく使いやすいようになる物の 始末の仕方を感じたり、手伝ってもらって の、自分でしようとする																																	
食を 見 つ め る	いろいろな食材に興味をもったり、幼稚園で先 生や友達、お家の人とおやつや弁当を食 べたり、収穫した野菜を家に持って帰って食 べたり、自分で手を加えて食べられるように したり、いろいろな食べ物を喜んで食べよう とする																																	
資源の 活 用 を 見 つ め る	見たり、聞いたり、教えてもらったりして、無 駄になることはもったいないと感じ、大切に しようとする																																	
社会と つ な が り を も つ	幼稚園や園外保育先の施設、そこにある物や そこで使う物に興味・関心をもち、みな の物であることとそれぞれの使い方の理由を 知る																																	
多様性 を 見 つ め る	身近な伝統行事に触れ、いろいろな行事があ ることを知る																																	
色や形に 表 す	身近な伝統行事や祝祭日、地球や海外の文 化などに触れ、いろいろな行事や文化があ ることを知る																																	
音に表 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、日本の高 齢や生活の節目を感じたり、地球や海外の 文化などに触れ、その違いを感じたり、面 白いと思ったり、大切にしようとする																																	
言葉に表 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、いろいろな 行事や祝祭日があることを知る																																	
体や動き に表 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、いろいろな 行事や祝祭日があることを知る																																	
演出・ 構 成 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、いろいろな 行事や祝祭日があることを知る																																	
資質・能力 の 具 体 の ま と り	資質・能力の 具 体																																	
場や状況 を整える	自分の周りが気持ちよく使いやすいようになる物の 始末の仕方を感じたり、手伝ってもらって の、自分でしようとする																																	
食を 見 つ め る	いろいろな食材に興味をもったり、幼稚園で先 生や友達、お家の人とおやつや弁当を食 べたり、収穫した野菜を家に持って帰って食 べたり、自分で手を加えて食べられるように したり、いろいろな食べ物を喜んで食べよう とする																																	
資源の 活 用 を 見 つ め る	見たり、聞いたり、教えてもらったりして、無 駄になることはもったいないと感じ、大切に しようとする																																	
社会と つ な が り を も つ	幼稚園や園外保育先の施設、そこにある物や そこで使う物に興味・関心をもち、みな の物であることとそれぞれの使い方の理由を 知る																																	
多様性 を 見 つ め る	身近な伝統行事に触れ、いろいろな行事があ ることを知る																																	
色や形に 表 す	身近な伝統行事や祝祭日、地球や海外の文 化などに触れ、いろいろな行事や文化があ ることを知る																																	
音に表 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、日本の高 齢や生活の節目を感じたり、地球や海外の 文化などに触れ、その違いを感じたり、面 白いと思ったり、大切にしようとする																																	
言葉に表 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、いろいろな 行事や祝祭日があることを知る																																	
体や動き に表 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、いろいろな 行事や祝祭日があることを知る																																	
演出・ 構 成 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、いろいろな 行事や祝祭日があることを知る																																	
資質・能力 の 具 体 の ま と り	資質・能力の 具 体																																	
場や状況 を整える	自分の周りが気持ちよく使いやすいようになる物の 始末の仕方を感じたり、手伝ってもらって の、自分でしようとする																																	
食を 見 つ め る	いろいろな食材に興味をもったり、幼稚園で先 生や友達、お家の人とおやつや弁当を食 べたり、収穫した野菜を家に持って帰って食 べたり、自分で手を加えて食べられるように したり、いろいろな食べ物を喜んで食べよう とする																																	
資源の 活 用 を 見 つ め る	見たり、聞いたり、教えてもらったりして、無 駄になることはもったいないと感じ、大切に しようとする																																	
社会と つ な が り を も つ	幼稚園や園外保育先の施設、そこにある物や そこで使う物に興味・関心をもち、みな の物であることとそれぞれの使い方の理由を 知る																																	
多様性 を 見 つ め る	身近な伝統行事に触れ、いろいろな行事があ ることを知る																																	
色や形に 表 す	身近な伝統行事や祝祭日、地球や海外の文 化などに触れ、いろいろな行事や文化があ ることを知る																																	
音に表 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、日本の高 齢や生活の節目を感じたり、地球や海外の 文化などに触れ、その違いを感じたり、面 白いと思ったり、大切にしようとする																																	
言葉に表 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、いろいろな 行事や祝祭日があることを知る																																	
体や動き に表 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、いろいろな 行事や祝祭日があることを知る																																	
演出・ 構 成 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、いろいろな 行事や祝祭日があることを知る																																	
資質・能力 の 具 体 の ま と り	資質・能力の 具 体																																	
場や状況 を整える	自分の周りが気持ちよく使いやすいようになる物の 始末の仕方を感じたり、手伝ってもらって の、自分でしようとする																																	
食を 見 つ め る	いろいろな食材に興味をもったり、幼稚園で先 生や友達、お家の人とおやつや弁当を食 べたり、収穫した野菜を家に持って帰って食 べたり、自分で手を加えて食べられるように したり、いろいろな食べ物を喜んで食べよう とする																																	
資源の 活 用 を 見 つ め る	見たり、聞いたり、教えてもらったりして、無 駄になることはもったいないと感じ、大切に しようとする																																	
社会と つ な が り を も つ	幼稚園や園外保育先の施設、そこにある物や そこで使う物に興味・関心をもち、みな の物であることとそれぞれの使い方の理由を 知る																																	
多様性 を 見 つ め る	身近な伝統行事に触れ、いろいろな行事があ ることを知る																																	
色や形に 表 す	身近な伝統行事や祝祭日、地球や海外の文 化などに触れ、いろいろな行事や文化があ ることを知る																																	
音に表 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、日本の高 齢や生活の節目を感じたり、地球や海外の 文化などに触れ、その違いを感じたり、面 白いと思ったり、大切にしようとする																																	
言葉に表 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、いろいろな 行事や祝祭日があることを知る																																	
体や動き に表 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、いろいろな 行事や祝祭日があることを知る																																	
演出・ 構 成 す	身近な伝統行事や祝祭日に触れ、いろいろな 行事や祝祭日があることを知る																																	

学校等の概要

1 学校名、校長名

学校名：コウベダイガクフゾクヨウチエン 神戸大学附属幼稚園

校園長名：タナカ タカナオ 田中 孝尚

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地：兵庫県明石市山下町3-4

電話番号：078-911-8288

FAX番号：078-914-8153

3 学年・課程・学科別幼児・児童・生徒数、学級数

3歳児		4歳児		5歳児		計	
幼児数	学級数	幼児数	学級数	幼児数	学級数	幼児数	学級数
40	2	39	2	39	2	118	6

4 教職員数

園長	副園長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1					7					3
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	教員業務 支援員	技術補佐員	計				
		3		3	1	18				

5 研究歴

○文部科学省関係

- 平成 12～14 年度 研究開発学校
社会を創造する知性・人間性を育むことをめざした新しい教育システムの開発
(神戸大学発達科学部附属幼稚園・小学校・中学校)
- 平成 22～24 年度 研究開発学校
幼稚園教育と小学校教育の接続期における円滑な接続のための新分野創設に向けたカリキュラムと指導方法等の研究開発 (神戸大学附属幼稚園)
- 平成 25～令和元年度 研究開発学校
幼稚園と小学校の円滑な接続に資する、子どもの学びに着目した、幼児教育と小学校教育 9 年間を一体としてとらえた教育課程の大綱となる「初等教育要領」の開発 (神戸大学附属幼稚園・小学校)
- 平成 28 年度 幼児期の教育内容等深化・充実調査研究
幼小接続の円滑な実施を図るためのカリキュラムのあり方に関する調査研究
幼児期に育みたい資質・能力を支える指導方法と評価に関する研究—幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の観点から— (神戸大学附属幼稚園)

- ・令和元年度 幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究
ICT や先端技術の活用などを通じた幼児教育の充実の在り方に関する調査研究
遊びと生活場面における個々の子ども理解と援助の充実につながる ICT の活用方法に関する調査研究
〔国立大学法人神戸大学（大学院人間発達環境学研究科・附属幼稚園）〕
- ・令和2年度 幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究
ICT や先端技術の活用などを通じた幼児教育の充実の在り方に関する調査研究
位置測位データを活用した個々の幼児の育ちと学びの理解の深化と、教師の省察、家庭との連携の充実につながる ICT の活用方法に関する調査研究
〔国立大学法人神戸大学（大学院人間発達環境学研究科・附属幼稚園）〕
- ・令和3年度 幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究
ICT や先端技術の活用などを通じた幼児教育の充実の在り方に関する調査研究
位置測位システムを活用した幼児理解の深化と根拠に基づくカリキュラム・マネジメントによる実践の充実方法に関する調査研究
〔国立大学法人神戸大学（大学院人間発達環境学研究科・附属幼稚園）〕

令和7年度研究開発実施報告書

1 研究開発課題

幼稚園教育要領における5領域の構成と要領上の用語の不一致が、小学校教師の幼児教育への理解を停滞させている一因と考える。そこで、領域の枠組みを資質・能力の観点から再編し、要領上の用語の整合性を図ることにより、幼小双方の教師の理解を促進し、幼小の接続を推進するカリキュラムと指導方法の研究開発を行う。

2 研究開発の概要（別紙1：研究の概要図参照）

幼児教育の独自性の担保に寄与してきた幼稚園教育要領の5領域の構成と幼小における要領上の用語の不一致は、資質・能力の考え方が普及する現在、幼児教育への理解を停滞させている一因と考える。

そこで、資質・能力の観点から領域の枠組みを再編し、用語の整合性を図ることで、幼小双方の教師、さらには社会一般の幼児教育への理解の深化に資する、新たなねらいの枠組みによるカリキュラムと指導方法の研究開発に取り組む。

具体的には、以下の取組を実施する。

- ①文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園が見出した資質・能力を整理することによる、5領域に替わる新たなねらいの枠組みの創設
- ②用語の整合性を図った上での、新たなねらいの枠組みによるカリキュラムの開発
- ③新たなねらいの枠組み又は開発したカリキュラムによる保育実践データの収集
- ④新たなねらいの枠組みを含む開発したカリキュラムの検証・評価
- ⑤子どもの追跡調査の実施及び検証

【手段】

具体的な研究開発の手段は以下のように考えている。

- ①文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園が見出した資質・能力を整理することによる、5領域に替わる新たなねらいの枠組みの創設

本園が平成12年度から歴史的、継続的に取り組んできた幼小中の連携によるカリキュラム研究により得られた知見を生かし、幼児教育と小学校の双方の教師が資質・能力を育む観点から見出した子どもの育ちを捉え支える資質・能力を見直し、文部科学省より示されている資質・能力を基にその整合性等を検討し、整理することにより、幼児教育と小学校の双方の教師にとって理解しやすい幼児教育における新たなねらいの枠組みを創設する。

- ②用語の整合性を図った上での、新たなねらいの枠組みによるカリキュラムの開発
幼児教育と小学校の双方の教師にとって理解しやすい用語を整理し、要領上の整合性を図った上で、新たなねらいの枠組みを採用したカリキュラムを開発する。

- ③新たなねらいの枠組み又は開発したカリキュラムによる保育実践データの収集

第2年次は新たなねらいの枠組み、第3、4年次は開発したカリキュラムによる実践を通した子どもの事実を基に作成した実践記録やドキュメンテーション、保育指導案等で実践データを研究開発学校実施園及び研究協力園において収集するとともに、子どもの学びの実態に着目しながら、資質・能力の発揮、伸長に有効な手立てを、根拠を明確にしながら検証する。その際、常に子どもの事実にこだわり、子どもが何を学んだかを見取することに主眼を置き、各教師個人による日々の省察、研

究グループによる省察及び全体での省察を行う。

④ 新たなねらいの枠組みを含む開発したカリキュラムの検証・評価

研究協力園も含めた保育実践に加え、これまで幼稚園年長児と小学校1年生との合同学習として、幼小の教師が共同で、幼稚園年長児と小学校1年生に同じねらいを設定し、学習の場を生み出してきている取組を、新たなねらいの枠組み又は開発したカリキュラムを踏まえて構想する。新たなねらいの枠組み又は開発したカリキュラムを試行的に架け橋期のカリキュラムに位置付け、幼稚園での学びや学び方、幼児教育における「環境を通して行う教育」の考え方を取り入れた上での実践を通して収集した実践データを基に、架け橋期のカリキュラム及び指導方法、新たなねらいの枠組みを含む開発したカリキュラムの妥当性を検証・評価する。

⑤ 子どもの追跡調査の実施及び検証

附属小学校との連携により幼小合同学習の実践データを継続して収集し、小学校1年生のうち、開発したカリキュラムによる保育実践を実施した本園を修了した子どもと外部から入学した子どもとのデータを比較・分析することにより、開発したカリキュラムの子どもの資質・能力の育成における効果を、科学的根拠を基に検証する。

【期待される具体的成果】

本研究開発による実践を通して、次のような成果が得られると考える。

- ① 幼児教育と小学校教育の接続や幼児期の資質・能力の育成を推進することに資する、幼児教育と小学校の双方の教師にとって理解しやすいカリキュラムの構造化や要領上の用語の整理を図ることができる。
- ② 架け橋期を含む子どもの資質・能力の育成に有効な指導方法が明らかとなり、具体的な教育実践が提案できる。
- ③ 幼小の教師が共同で学習の場を構想、実践することを通して、幼小における子どもの学びの見取り方や指導方法等の相互理解の深化が図れる。
- ④ 子どもの追跡調査により、開発したカリキュラムの子どもの資質・能力の育成における有効性について科学的根拠を基に証明できる。
- ⑤ 研究発表会等を通して、幼児教育と小学校教育の接続や子どもの資質・能力の育成の在り方について、地域の幼児教育及び小学校教育関係者との相互理解を促進するとともに、保護者の理解を深めるなど、より一層の連携・協力を推進することができる。

【研究の結果】

＜一年次＞

○本園の見出している資質・能力の見直しを行う中で、幼児期に育みたい資質・能力の具体を詳細に示している。見直しの中で、人格形成の基礎となる資質・能力のまとまりの中に、「自分のことを知る」の資質・能力を新たに設定した。幼児期に自己理解や自己概念を育むことへの意識の高まりにつながった。

○また、資質・能力の名称や定義において、さらに、幼児期の関心・感覚といったプロセスや、心情・意欲・態度を大切に考える考え方、資質・能力は関連しあって育まれるものであるという考え方を表す表現の工夫の必要が明らかになり、取り組み始めている。

○文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園の見出している資質・能力との関係を整理した結果、「学びに向かう力、人間性等」と本園の見出している「人格形成の基礎となる資質・能力」、「知識及び技能の基礎」と本園の見出している

「知性につながる資質・能力」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」と本園の見出している「思考力」は「同等」と考えた。ただし、「学びに向かう力、人間性等」、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」は、重なりをもって示されており、関係性は明確にされていないが、本園の見出している「人格形成の基礎となる資質・能力」、「知性につながる資質・能力」、「思考力」には重なりはない。資質・能力としては重なりなく捉えられるが、「思考力」は「人格形成の基礎となる資質・能力」や「知性につながる資質・能力」と同時に発揮、伸長される資質・能力であると捉え、三つの資質・能力の関係性を明らかにできた。

○その上で、幼児期の資質・能力を育む観点からの子どもの見取りやねらいの設定に有効と考える「ねらいの枠組み」は、9の「人格形成の基礎となる資質・能力」と22の「知性につながる資質・能力」の計31であり、「思考力」として設定している10の資質・能力については、これら31から成るねらいの枠組みの中に設定していく考え方が理解しやすいことを明らかにした。

<二年次>

○本園の見出している資質・能力の見直しを続け、文部科学省の示す資質・能力との関係性や整合性の整理を進めると同時に、一般に分かりやすく、また、幼児期の実態に合った表現となるよう、これまで「資質・能力」と呼んでいた詳細な観点を「資質・能力の具体」と置き直したり、「資質・能力の具体」の方向性を一つ一つ、重なりはないか、足りない要素はないか、意欲や関心を寄せるプロセスを含めて表しているかなど検討、改善したりして、「神戸大学附属幼稚園 カリキュラムにおける観点（令和8年1月現在）」（別紙2）にまとめた。

○その際、本園の「人格に関わる資質・能力」、「知性に関わる資質・能力」、「思考に関わる資質・能力」と、文部科学省の示す「学びに向かう力、人間性等」、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」は、それぞれ親和性が高いものであると捉え直した。

○本園の見出している資質・能力の見直しの結果、幼児期の資質・能力を育む観点から、子どもの見取りやねらいの設定に有効と考える「ねらいの枠組み」は、9の「人格に関わる資質・能力」と17の「知性に関わる資質・能力」の計26とし、14の「思考に関わる資質・能力」は、これら26の資質・能力のねらいの言葉に含み込み、「人格に関わる資質・能力」及び「知性に関わる資質・能力」と同時に発揮、伸長することを支えていくものであると置き直した。

○新たに置き直した26のねらいの枠組みにより、実践とともに本園の教育課程や指導計画の見直しを行っている。さらに、広く一般の保育者に、新たなねらいの枠組みによるねらいが分かりやすく、実践に活用しやすい形でまとめることにも取り組んでいる。

○第一年次に引き続き、兵庫県下の市町や幼児教育施設に、本研究開発の説明と研究協力の依頼を行い、兵庫県下等の多くの市町や幼児教育施設で、協力の承諾が得られている。承諾を得られた研究協力園の中には、今年度試行的に本園の資質・能力の考え方を実践に取り入れてくださった園があり、新温泉町立認定こども園や東・中播磨教育研究会の民間の幼児教育施設から、指導案や実践記録、ドキュメンテーションの資料提供を受けている。

3 研究開発の経緯

<一年次>

第一年次は、56回の園内研究会、7回の拡大研究会、2回の運営指導委員会を実施、以下の研究を実施した。

(1) 本園の見出している資質・能力の見直し

これまでの保育実践やカリキュラム・マネジメントによる集積データを基に、本園の見出している資質・能力について名称や定義、捉え方等を見直した。

◆資質・能力名を幼児期に適したものに见直す

幼児期には、適切さや数理的及び科学的な正確性ではなく、関心・感覚を育むことが重要であると考え、資質・能力名にあった「適切に」、「数理的に」、「科学的に」という言葉を削除した。

◆資質・能力の定義や捉え方を見直す

事例検討など集積されたデータから、「文芸に表す」、「演出に表す」の資質・能力の定義に、話や役の設定、表現方法といった新たな要素を増やしたり、「資源の活用を見つめる」の資質・能力における資源の捉え方を物だけでなく時間や労力も資源であると広げたりした。

◆資質・能力としてのあり方を問い直し、他の資質・能力で捉え直す

扱う対象によって資質・能力が異なるのは本園の資質・能力の考え方にそぐわないと考え、「衣類を整える」の資質・能力を「道具を操る」と「身体を操作する」の資質・能力で捉え直すなどの捉え直しを行った。また、「他者を称賛する」などの資質・能力は、他者のよさに気付いている部分は「他者のことを知る」、感じた思いを伝えようとする部分は「自分のことを伝える」などと具体的な内容によって他の資質・能力で捉えることが望ましいと考え、削除したりした。

◆資質・能力として本質的な違いがあるのかを問い直し、統合する

「人と協力・共同する」と「人と物事を進める」、「事物を捉える」と「現象を捉える」、「心の健康を保つ」と「気持ちをコントロールする」などの資質・能力は、資質・能力として別の力であるのか議論を重ね、本質的な資質・能力としては同じではないかと考え、統合した。

◆汎用的資質・能力（思考力）であるか問い直す

事例検討から、「汎用的資質・能力（思考力）」のうちの「自分を客観的に把握する」の資質・能力が、他の資質・能力と同時に発揮、伸長するのではなく単独で発揮、伸長されていることから、「社会的資質・能力（人格形成の基礎となる資質・能力）」として「自分のことを知る」の資質・能力と位置付け、捉え直した。

◆大きな資質・能力のまとまりの名称を変更し、定義の言葉で表す

広く理解してもらおうという視点から、大きな資質・能力のまとまりの名称を、これまで定義として使っていた言葉で表すこととした。「社会的資質・能力」を「人格形成の基礎となる資質・能力」に、「固有的資質・能力」を「知性につながる資質・能力」に、「汎用的資質・能力」を「思考力」に変更した。

(2) 文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園の見出している資質・能力との関係性を整理

文部科学省より示されている資質・能力を基に、本園の見出している資質・能力との関係性を整理した結果、「学びに向かう力、人間性等」と本園の見出している「人格形成の基礎となる資質・能力」、「知識及び技能の基礎」と本園の見出している「知性につながる資質・能力」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」と本園の見出している「思考力」は「同等」であると考えた。ただし、「学びに向かう力、人間性等」、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」は、重なりをもって示されており、関係性は明確にされていないが、本園の見出し

ている「人格形成の基礎となる資質・能力」、「知性につながる資質・能力」、「思考力」の関係性は、「人格形成の基礎となる資質・能力」と「知性につながる資質・能力」には重なりはなく、「思考力」は「人格形成の基礎となる資質・能力」及び「知性につながる資質・能力」と重なっており、切り離して捉えることはできないと考えた。

（3）新幼稚園教育要領（案）のねらいの枠組みを設定

このように再整理した資質・能力を基に、幼児期の資質・能力を育む観点から、子どもの見取りやねらいの設定に有効と考える「ねらいの枠組み」を検討した結果、「思考力」と設定している10の資質・能力については、9の「人格形成の基礎となる資質・能力」と22の「知性につながる資質・能力」、計31から成るねらいの枠組みの中に設定していく考え方が理解しやすいと考える。

<二年次>

第二年次は、43回の園内研究会、6回の拡大研究会、2回の運営指導委員会を実施、以下の研究を実施した。（令和8年1月31日時点）

（1）本園の見出している資質・能力の見直しの継続

◆資質・能力の考え方についての整理及び表記の変更

第一年次に行った神戸大学附属幼稚園の資質・能力の見直しを継続していく中で、文部科学省の示す資質・能力との関係性や整合性の整理を進めると同時に、本園の見出している資質・能力の示し方について、幼児期の実態に合った、一般に分かりやすい表現となるよう検討、改善を繰り返し、資質・能力の捉えを明示したり、「資質・能力の具体」と項目を変更したりし、「神戸大学附属幼稚園 カリキュラムの観点」にまとめた。

◆「思考力」を見直し、捉えを広げ、「思考に関わる資質・能力」と捉え直す

これまで「思考力」としていた資質・能力について、幼児期の実態に合った内容や表現になっているのか、一般に思考力の捉えは広いが網羅できているのかなどと上がっていた課題について検討を進めるとともに、幼児期には、考える意欲や態度、姿勢の育成も重要であると捉え直したことから、「思考に関わる資質・能力」と位置付け、「方向性」の表現も同様に見直した。

◆資質・能力の具体のまとまりを再構成する

知性に関わる資質・能力について、資質・能力の具体を捉えていく時に、資質・能力の方向性としてまとまりがある方が捉えやすいと考え、資質・能力の具体を一つ一つ見直しながら、整理、分類し、【健やかな身体】、【ものへの感覚・探究】、【暮らしの創造】、【感動・想像の表現】の4のまとまりとして置いた。

◆資質・能力の具体を再構成する

すべての資質・能力の具体について、捉えや方向性の表し方を検討し、関心を寄せる姿や、意欲や態度といった資質面が表せているか、幼児期の実態に合った表現になっているか、位置づいていない資質・能力がないか、重複している捉えはないかなど丁寧に見直しを行い、統合したり整理したり、方向性の言葉を修正したりした。

（2）新たなねらいの枠組みによるカリキュラムの開発

本園の見出している資質・能力の見直しを踏まえ、幼児期の資質・能力を育む観点から、子どもの見取りやねらいの設定に有効と考える「ねらいの枠組み」は、9の「人格に関わる資質・能力」と17の「知性に関わる資質・能力」の計26とし、14の「思考に関わる資質・能力」は、これら26の資質・能力のねらいの言葉に含み込み、「人格に関

わる資質・能力」及び「知性に関わる資質・能力」と同時に発揮、伸長することを支えていくものであると整理し直した。

このねらいの枠組みにより、これまでの見直しを踏まえ、「入園から修了までのねらい一覧」を基に編成した教育課程（長期の指導計画、短期の指導計画、遊びや生活のまとめりととの計画、5歳（年長）・6歳（一年生）合同単元学習展開案等）の作成、改善を行った。

さらに、開発したカリキュラムの有効性を、広く一般の保育者に検証してもらうべく、新たなねらいの枠組みによるねらいが分かりやすく、実践に活用しやすい形にまとめようとしている。その際、資質・能力の具体毎に、満3歳児から5歳児までの育ちの様相を示すことができ、かつ、学年毎の到達目標であると誤解されないように、ねらいの変化や積み重ねが分かる表し方の工夫をしながら進めている。

（3）研究協力の依頼、アンケート調査の準備

第一年次に引き続き、兵庫県下の市町や幼児教育施設に、本研究開発の説明と研究協力の依頼を行った。開発したカリキュラムを実践に取り入れ、アンケートに回答することに対し、兵庫県下等で多くの承諾を得られている。また、新たなねらいの枠組みによるカリキュラムやその考え方の効果を検証するアンケート項目の作成、検討を行った。

4 研究開発の内容

（1）本園の見出している資質・能力の見直しによる新たなねらいの枠組みの再編

これまでの実践や文部科学省の示す資質・能力との関係性の整理を受けて、第一年次に見直した本園で見出している資質・能力を、幼児期の実態に合った、広く一般に分かりやすい表現にするという観点や、子ども達の姿や実践に表れているが明確に位置付けることができている資質・能力がないかという観点等から、さらに見直しを継続し、「神戸大学附属幼稚園 カリキュラムにおける観点（令和8年1月）」（別紙2）にまとめた。

新設文字 開発段階 資質・能力	【資質・能力のまとまり】 方向性	資質・能力の具体	方向性	新設文字 開発段階 資質・能力	資質・能力の具体	方向性
人として関わる資質・能力	【自分の生き方】 様々な関わり合いの中で、自分をつまみ、したいことやすべきことを自分で決め、よりよい生き方を目指そうとする	自ら決める・選ぶ	興味・関心をもって、目的や目標を定めたりして、好きになって関わりたり、その実現に向けてやり遂げようとする	「思考に関する資質・能力」は、「人格に関わる資質・能力」や「知性に関する資質・能力」と同時に発揮、伸長される。	比較する	ものやことを具体物やイメージなどと照らし合ったり、観点をもって比べ、共通点や相違点を挙げ分けようとする
		充実感を得る	自分の強みや成長、思いが実現したこと、嬉しいや満足、達成感を感じる		検定付ける	ものやことを、ある観点で共通点のあるものやことと結びつけようとする
		気持ちをコントロールする	よりよい方向に向けて、自分の気持ちに折り合いをつけるようとする		分類する	観点をもって、まとまりに分けようとする
		自分のことを知る	自分の興味や関心、自分の思いや状態、性格、喜ぶの意味などに気付いたり、それを認めたり大切にしようとする		整理立てる	この関係性を、紐を通して整理したり順序立てたりしようとする
		他者との関わりを感じる	他者と関わるのよさや楽しさ、よさを感じて、つながりを大切にしようとする		提出付ける	理由や理由、根拠を挙げたり、振り返って見出したりしようとする
		他者に関心をもち、思いや考え、個性を認めようとする	他者の思いや考えを伝えたいと思い、行動や言葉で伝えようとして、伝えようとする		具体化する	ものやことを具体的な図えたり表したりしようとする
		自分のことを伝える	自分の思いや考えを伝えたいと思い、行動や言葉で伝えようとして、伝えようとする		抽象化する	ものやことを共通の視点でまとめて表したりしようとする
		他者のことを考えて行動する	他者に寄り寄り、相手にとってよいと思うことをしようとする		焦点化する	目的に向けて、いろいろな観点から注目するところを絞り込もうとする
		人と物事を比べる	人と共通の目的や目標に向かって、自分でできることをしようとして、見直しをもって必要なことを決断したり、互いの長短を認めながら責任を担おうとする		多量に見る	ものやことをいろいろな観点から捉えようとする
		【健やかな身体】 身体の変化、周囲の状況に応じて、健康、安全に過ごす	健康を大切にする		健康の保持・増進に関心をもち、必要なことを考え、自分ができることをしようとする	批判的に考える
知性に関する資質・能力	【ものへの感覚・探究】 ものや事象への感覚を磨きにし、それらの性質や仕組みを探ろうとする	体を守る	自分の状態や周囲の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする	「意図してやりたい問題解決の思考のプロセス」 問題を認識する ある目的を達成するための問いを生む → 量化的・発見的、直感的な方法で探検する ある目的を達成するための方法を自発的・探検的に考え、必要に応じて選ぶ → 実行し、その結果を基に判断する 目的が達成されたかどうかその過程が適切であったかどうかを評価する	評価する	観点をもって、見直したことや経験したことへの自分の考えをもちようとする
		体の動きや感覚を聞く	体の感覚や周囲の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする		総合する	見直したことや経験したこと、考えたことなどの根拠を基に予想しようとする
		自然環境を見つめる	動物や植物の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする		発見する	目的に基づいた新たな考えを思い出したり生み出したりしようとする
		生き物・虫を見つめる	動物や植物の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする			
		自然環境を眺める	動物や植物の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする			
		動物・虫を見つめる	動物や植物の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする			
		動物・虫を見つめる	動物や植物の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする			
		動物・虫を見つめる	動物や植物の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする			
		動物・虫を見つめる	動物や植物の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする			
		動物・虫を見つめる	動物や植物の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする			
【豊かな創造】 生活や文化、社会に豊かさを加え、暮らしを豊かにするために、考え、行動しようとする	食を見つめる	食のことや食べ物を育てたり加工したりすることの楽しさを感じたり、様々な食材や料理に好奇心をもち、食べたいものや食べたいものを食べようとする				
	資源の活用を見つめる	動物や植物の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする				
	社会とつながりをもつ	動物や植物の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする				
	多様性を見つめる	動物や植物の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする				
	色や形を表す	動物や植物の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする				
	音を表す	動物や植物の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする				
	言葉に表す	動物や植物の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする				
	身体や動きを表す	動物や植物の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする				
	絵や図表に表す	動物や植物の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする				
	演出・構成する	動物や植物の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする				

見直した具体を以下に示す。

◆資質・能力の考え方についての整理及び表記の変更

本園で見出している資質・能力について、詳細な観点の一つ一つを「資質・能力」と置いていたが、文部科学省の示す「資質・能力」との混乱を防ぐため、詳細な観点は「資質・能力の具体」と名付け、これまで「資質・能力の定義」としていたものを、「方向性」として示した。

また、「神戸大学附属幼稚園の資質・能力」を「生涯にわたってよりよく生きるために必要な心や体の働きである」と捉え、「個別に取り出して育むものではなく、遊びや生活を通して総合的に育まれるものである」という留意事項とともに明記した。

さらに、本園において育みたい資質・能力名を「人格に関わる資質・能力」、「知性に関わる資質・能力」、「思考に関わる資質・能力」と表現を見直し、「人格に関わる資質・能力」は文部科学省の示す「学びに向かう力、人間性等」と、「知性に関わる資質・能力」は「知識及び技能の基礎」と、「思考に関わる資質・能力」は「思考力、判断力、表現力等の基礎」と、同等とは言い難いがそれぞれ親和性が高いものであると捉え直した。また、「学びに向かう力、人間性等」と「知識及び技能の基礎」と「思考力、判断力、表現力等の基礎」は、どれも同様の重なりをもって示されており、それぞれの関係性は明確にされているとは言い難いのに対し、本園において育みたい資質・能力の関係性は、「人格に関わる資質・能力」と「知性に関わる資質・能力」には重なりはなく、「思考に関わる資質・能力」は「人格に関わる資質・能力」及び「知性に関わる資質・能力」と重なっており、切り離すことはできない、つまり、「思考に関わる資質・能力」は「人格に関わる資質・能力」及び「知性に関わる資質・能力」と同時に発揮、伸長されると捉えていることを、「神戸大学附属幼稚園カリキュラムにおける観点（令和8年1月）」においても視覚的に明示した。

◆「思考力」を見直し、捉えを広げ、「思考に関わる資質・能力」と捉え直す

本園のカリキュラムの観点を見直していく中で、これまで「思考力」としていた資質・能力について、幼児期の実態に合った内容や表現になっているのか、一般に思考力の捉えは広いが網羅できているのかといった課題が上がり、検討を進めた。一度は、「思考力」を、資質・能力ではなく思考の方法として「考え方」と捉え、実践を行った。しかし、幼児期には、考える意欲や態度、姿勢の育成も重要であることを、「人格に関わる資質・能力」や「知性に関わる資質・能力」と同様に示す必要があると考え直し、「思考に関わる資質・能力」と位置付け、「方向性」の表現も同様に見直した。

また、「人格に関わる資質・能力」や「知性に関わる資質・能力」と切り離して単独でねらいを設定したり学びを見取ったりするものではない「思考に関わる資質・能力」における詳細な観点は、これまで、指導計画のねらいの言葉に表れているものと、表出された子どもの姿からの見取ったり、子どもの姿に応じて教師の意図に含み込んで支えたりするものとの※印を使って分けて表示していたが、「思考に関わる資質・能力」の見直しを行う中で、「人格に関わる資質・能力」や「知性に関わる資質・能力」のねらいの中に、この詳細な観点を使って「思考に関わる資質・能力」のねらいを示そうとすることは、思考のあり方を限定してしまうこととな

り、そぐわないと考えるようになった。「思考に関わる資質・能力」の詳細な観点である「資質・能力の具体」は、子どもの姿を見取る時や教師の援助及び環境の構成を考える時に活用する観点とし、ねらいの枠組みである「人格に関わる資質・能力」や「知性に関わる資質・能力」の観点でねらいを示す際には、「思考に関わる資質・能力」のうち、どの「資質・能力の具体」の発揮、伸長を期待するのかは限定せず、「思考に関わる資質・能力」が同時に発揮、伸長されると想定する部分に下線を引いて、ねらいに示すこととした。

資質・能力の具体を見直す際には、論理的思考のみに限定せず、子どもがどのような考え方をしながら思考を深めているのかについて、泰山(2014)が示した19の思考スキル等、先行研究の知見を参考にして整理した。その中で、これまでは、

【論理的思考力】と【問題解決力】のまとまりを置いていたが、【問題解決力】に示していたものは、問題解決の思考のプロセスであり、そのプロセスの中で、様々な資質・能力の具体を発揮、伸長させていると捉え、これまで【問題解決力】として置いていた

「問題を認識する」、「豊かに発想し、追求の手立てを構想する」、「実行し、その結果を基に判断する」は、「思考に関わる資質・能力」からは削除し、思考のプロセスを見取る際に意識しておきたい視点として置くこととした。

「人格形成の基礎となる資質・能力」や「知性につながる資質・能力」と同時に発揮、伸長される資質・能力

思考力	【論理的思考力】 物事を整理し、順序よく考える力	比較する
		関連付ける
		総合する
		再構成する(※)
		推論する(※)
		論点を抽出する(※)
	【問題解決力】 問題を見出し、解決方法を導き出し、実行する力	批判的に考える(※)
		問題を認識する
		豊かに発想し、追求の手立てを構想する
		実行し、その結果を基に判断する

(※)現時点で神戸大学附属幼稚園の指導計画において、ねらいの言葉に表れてはいるが、表出された子どもの姿から見取ったり、子どもの姿に応じて教師の意図に含み込んで支えたりする資質・能力として存在しているもの。

(令和7年1月時点)

「思考に関わる資質・能力」は、「人格に関わる資質・能力」や「知性に関わる資質・能力」と同時に発揮、伸長される。

神戸大学 附属幼稚園 の資質・能力	資質・能力の具体
思考に関わる 資質・能力	比較する
	関連付ける
	分類する
	筋道立てる
	理由付ける
	具体化する
	抽象化する
	焦点化する
	多面的に見る
	批判的に考える
	評価する
	総合する
	推論する
発想する	

意識しておきたい問題解決の思考のプロセス

```

    graph TD
      A[問題を認識する  
ある目的を達成するための問いを生む] --> B[豊かに発想し、追求の手立てを構想する  
ある目的を達成するための方法を自想的・論理的に考え、最適な考えを選ぶ]
      B --> C[実行し、その結果を基に判断する  
目的が達成されたかどうかその過程が適切であったかどうかを評価する]
      C -.-> A
  
```

(令和8年1月時点)

一つ一つの資質・能力の具体の見直しについては以下に示す。

- ・「総合する」、「再構成する」、「推論する」を整理し、「総合する」と「推論する」で捉え直す

これまで「再構成する」で捉えていた「自分の知識や考えを、より妥当性の高いものに更新する」といった姿は、「総合する」ことを繰り返している姿であると捉え、「再構成する」は削除した。また、これまでの定義の表現では、「総合する」と「推論する」の違いが明確でなかったため、捉えを確かめ、方向性の言葉に明確に示した。

- ・「論点を抽出する」を捉え直し、「焦点化する」と設定する

これまで、論理的思考力の中の「論点を抽出する」として、「話の中心となるところを探り、目的に応じて絞り込み、確定する」と定義付けていたが、論点に限らず、問題解決のプロセスの中で問題（課題）点を捉える姿なども含まれることが分かるように、観点名

を「焦点化する」と変更し、合わせて方向性も見直した。

- ・新たに「分類する」、「筋道立てる」、「理由付ける」、「具体化する」、「抽象化する」、「多面的に見る」、「評価する」、「発想する」を設定する

これまでの観点では位置付けられていなかったが、幼児の育ちの姿としては捉え支えてきた資質・能力について、新たに、「分類する」、「筋道立てる」、「理由付ける」、「具体化する」、「抽象化する」、「多面的に見る」、「評価する」、「発想する」を設定し、明確に「思考に関わる資質・能力」として位置付け、それぞれ、幼児期の子どもの姿に合った思考への意欲等も含んだ表現で方向性を示した。

◆「知性に関わる資質・能力」の【資質・能力の具体のまとめり】を再構成する

知性に関わる資質・能力について、資質・能力の具体を捉えていく時に、資質・能力の方向性としてまとめりがある方が捉えやすいと考え、資質・能力の具体を一つ一つ見直ししながら、整理、分類し、【健やかな身体】、【ものへの感覚・探究】、【暮らしの創造】、【感動・想像の表現】の4のまとめりとして置いた。

◆資質・能力の具体を再構成する

具体のまとめりを再構成する中で、また、幼児期の実態に合わせた表現ができていないか確かめ見直していく中で、資質・能力の具体一つ一つの捉えをさらに丁寧に見直した。また、これまでの資質・能力の定義の言葉では、幼児教育において大切な興味・関心をもったり、様々に感じたりすることが十分に表現できていなかったことから、方向性の言葉だけを見ても分かるように書き直し直した。

資質・能力の大きなまとめり	【資質・能力のまとめり】定義	資質・能力
人格形成の基礎となる資質・能力	【自分の生き方】 様々な関わり合いの中で、自分を見つめ、したいことやすべきことを自分で決め、よりよい生き方を目指そうとする 【人とのつながり】 人と関わることを通して、他者の思いや考えに気づき、よりよい関係をつくろうとする	自ら決める・選ぶ
		自分に満足する
		気持ちをコントロールする
		自分のことを知る
		他者という喜びを感じる
		他者のことを知る
		自分のことを伝える
		他者のことを考えて行動する
		人と物事を進める
		知性につながる資質・能力
身を守る		
身体を操作する		
自然環境を見つめる		
生き物・命を見つめる		
事物・現象を捉える		
言葉・語句を活用する		
文章の構成を整える		
数・量を捉える		
形を捉える		
空間を捉える		
場や状況を整える		
食を見つめる		
財を活用する		
資源の活用を見つめる		
施設や働く人とのつながりをもつ		
多様な文化を尊重する		
造形に表す		
音楽に表す		
文芸に表す		
身体の動きに表す		
演出に表す		

(令和7年1月時点)



神戸大学 附属幼稚園 の資質・能力	【資質・能力の具体のまとめり】方向性	資質・能力の具体
人格に関わる資質・能力	【自分の生き方】 様々な関わり合いの中で、自分を見つめ、したいことやすべきことを自分で決め、よりよい生き方を目指そうとする 【人とのつながり】 人と関わることを通して、他者の思いや考えに気づき、よりよい関係をつくろうとする	自ら決める・選ぶ
		充実感を得る
		気持ちをコントロールする
		自分のことを知る
		他者という喜びを感じる
		他者のことを知る
		自分のことを伝える
		他者のことを考えて行動する
		人と物事を進める
		知性に関わる資質・能力
身を守る		
体の動きや感覚を磨く		
自然環境を見つめる		
【ものへの感覚・探究】 ものや事象への感覚を豊かにし、それらの性質や仕組みを探ろうとする	生き物・命を見つめる	
	事物・現象を捉える	
	数・量や形、空間を捉える	
	場や状況を整える	
【暮らしの創造】 生活や文化、社会に意欲を向け、暮らしを豊かにしていくために、考え、行動しようとする	食を見つめる	
	資源の活用を見つめる	
	社会とつながりをもつ	
	多様性を見つめる	
【感動・想像の表現】 思いやイメージが表されているものから思いを感じ取ったり、イメージを広げたり、自分らしく表すことを楽しんだりしながら、感性や創造性を豊かにする	色や形に表す	
	音に表す	
	言葉に表す	
	体や動きに表す	
		演出・構成する

(令和8年1月時点)

一つ一つの資質・能力の具体の見直しについては以下に示す。

- ・「自分に満足する」の方向性や資質・能力の具体名を見直し、「充実感を得る」とする

「自分に満足する」の言葉に表れているような「自分に」対しての満足だけではなく、存分に楽しさを味わった充実感や人と協同した結果得られた充実感などが含まれることを明示した。

- ・「身体を操作する」の資質・能力の具体の捉えを広げ、「体の動きや感覚を磨く」とする

「身体を操作する」として体を動かした時の感覚のみを捉えていたが、これまで捉えられていなかった触れてつるつるやざらざらの感触を味わうことや耳を澄ませて聴こうとすること、よく見ようとする事など、体の諸感覚を豊かにする姿も含まれると捉えを広げ、明示した。

- ・「語彙・語句を活用する」、「文章の構成を整える」、「文芸に表す」を統合し、「言葉に表す」とし、さらに「言葉に表す」の捉えを広げる

これまで、「語彙・語句を活用する」、「文章の構成を整える」、「文芸に表す」はそれぞれ異なる資質・能力であると捉えていた。これらは資質・能力として本質的な違いがあるのか疑問が生じ、検討する中で、言葉は、自分の思いやイメージを表現するために豊かにしているものであり、方向性は同じであると考えようになった。そこで3つを統合して、「言葉に表す」資質・能力として捉えていくこととした。さらに、「言葉に表す」の資質・能力については、言葉を獲得したり使ったりすることが思考の深まりに関連が強いことを意識して子どもの姿を見取ったり援助したりできるよう、言葉を用いて考える姿も含まれると捉えを広げた。

- ・「数・量を捉える」、「形を捉える」、「空間を捉える」を統合し、「数・量や形、空間を捉える」とする

これまで、「数・量を捉える」、「形を捉える」、「空間を捉える」は、数・量に対する感覚や思考、形に対する感覚や思考、空間に対する感覚や思考というように、それぞれ資質・能力が異なると捉え、分けて考えてきたが、例えば、部屋（空間）の広さを感じる時、同時に天井の高さという長さ（数）や容量も感じて総合的に広さを感じているように、強く関連しているがゆえ、分け難く、個別に捉えようとする事に不都合が出てきた。そこで、まとめて「数・量や形、空間を捉える」資質・能力として捉えていくこととした。

- ・「財を活用する」は、「資源の活用を見つめる」と、新たに捉え直した「社会とつながりをもつ」に含めて捉える

「財を活用する」で捉えてきたお金を適切に扱うことは、お金（資本）も資源であることから「資源の活用を見つめる」に含まれると捉え直した。また、売買の仕組みやサービスについては、新たに捉え直した「社会とつながりをもつ」における社会の仕組みの一つであると捉え直した。

- ・「多様な文化を尊重する」の資質・能力の具体の捉えを広げ、「多様性を見つめる」とし、「社会とつながりをもつ」の資質・能力の捉えと整理する

これまで、「多様な文化を尊重する」は、多様にある文化を尊重する資質・能力になっていたが、文化に限らず、外見や性別、個性、機能、役割なども多様であることを見つめ、これまで明確に位置づいていなかった多様性を尊重する資質・能力として捉えを広げた。加えて、文化に親しんだり関心をもったりすることは、「社会とつながりをもつ」の資質・能力であると資質・能力の捉えを整理した。

- ・「造形に表す」を「色や形に表す」、「音楽に表す」を「音に表す」、「文芸に表す」を

「言葉に表す」、「身体の動きに表す」を「体や動きに表す」として、捉え直す

【感動・想像の表現】のまとまりについて、造形、音楽、文芸という人が生み出してきた文化的な内容を含む言葉から、色や形、音、言葉といった子どもが会える素朴で原始的な素材を示す言葉に変更し、表出や表現をしたり感じたりする資質・能力であることを強調した。

・「文芸に表す」で捉えてきた一部分を、新たに捉え直した「演出・構成する」として捉え直す

これまで、「文芸に表す」で捉えていた「話の展開や内容、話や役などの設定のよさ」について、設定や展開を感じたり考えたりしていくことは、お話作りやごっこ遊びなどの言葉を伴った表現に限らず、色や形、音などによる表現においても、ストーリーや起承転結を感じたり考えたりするといった姿で見られることから、言葉による表現にのみ関係するものではないと考えた。設定や展開に関する部分を「文芸に表す」から取り出し、様々な表現や遊びの中で、設定や展開を思いのままに感じたり、その効果を感じたり生かそうとしたりする姿を、「演出・構成する」の資質・能力の表れであると整理した。

・新たに捉え直した「演出・構成する」の捉えを広げる

遊びのルールや設定を考え、より面白くしていく姿が、どの資質・能力の具体の表れの姿かとこれまでも議論に上がってきたが、資質・能力の捉えの整理を進める中で、遊びや遊び方の設定、遊びの展開を工夫してより遊びを面白いものにする「演出・構成する」の資質・能力として捉えることとし、方向性の言葉に明確に位置付けた。

・「色や形に表す」、「音に表す」、「文芸に表す」、「体や動きに表す」、「演出・構成する」の捉えを広げる

これまで、これらの資質・能力は、表現によるよさを感じたり表現しようとしたりする資質・能力であることを定義に示していたが、資質・能力の捉えを広げ、表現のよさを感じるのではなくもっと素朴に思いのままに感じる事が幼児期には大切であることや、これまで明確に位置付いていなかった想像を広げることや表す楽しさを感じることを方向性の言葉に明示した。

以上の本園で見出している資質・能力の見直しを踏まえ、幼児期の資質・能力を育む観点から、子どもの見取りやねらいの設定に有効と考える「ねらいの枠組み」は、9の「人格に関わる資質・能力」と17の「知性に関わる資質・能力」の計26とし、14の「思考に関わる資質・能力」は、これら26の資質・能力のねらいの言葉に含み込み、「人格に関わる資質・能力」及び「知性に関わる資質・能力」と同時に発揮、伸長することを支えていくものであると整理し直した。

（2）新たなねらいの枠組みによる教育課程の編成

「人格に関わる資質・能力」と「知性に関わる資質・能力」からなる新たなねらいの枠組みにより、教育課程や指導計画（月の指導計画、日の指導計画、遊びや生活のまとまりとしての計画）を編成している。本年度は、資質・能力の見直しと連動して実践しながら教育課程や指導計画を見直し続けている。令和7年10月時点までの変更を反映させたものが、教育課程資料「神戸大学附属幼稚園 入園から修了までのねらい一覧（令和7年10月現在）」（別紙3）である。その後、2学期、3学期の実践を踏まえて修正を行い、令和8年3月時点のものを本園ホームページに掲載する。長期の指導計画についても同様である。

神戸大学附属幼稚園 教育課程と長期指導計画の関連表（令和8年1月31日現在） 網掛け部分は実践後修正し、令和8年3月にHP掲載

自分の生き方【自ら決める・選ぶ】興味・関心をもったり、目的や目標を定めたりして、好きになって関わったり、その実現に向けてやり遂げようとしたりする

年齢	3歳児												4歳児												5歳児																							
月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3															
教育課程	したいと思ったり、好きなことを選んで、やりたいと思ったことをしたりする												好きなことやしたいことを選んだり、選んだりしたりする												できるようにしたい、上手になりたい、こうしたなどの具体的な目的をもって考えたり試したりして、何度も取り組もうとする												できるようにしたい、上手になりたい、こうしたなどの具体的な目的をもって考えたり試したりして、何度も取り組もうとする											
月のねらい	遊んだことのある好きな遊びの道具や、友達と一緒に遊ぼうとする												好きなことやしたいことを選んだり、選んだりしたりする												好きなことやしたいことを選んだり、選んだりしたりする												好きなことやしたいことを選んだり、選んだりしたりする											

（「神戸大学附属幼稚園 教育課程と長期指導計画の関連表（令和8年1月31日現在）」より一部抜粋）

短期の指導計画や遊びや生活のまとまりとしての計画については、その時期までに見直したことを反映させて計画、実践を行っている。そのため、今年度の計画については、資質・能力一つ一つの捉えや資質・能力の具体名、「思考に関わる資質・能力」のねらいとの関連の示し方などが、時期により異なっているが、来年度の実践と合わせて、今年度見出したねらいの枠組みや資質・能力の捉えを反映させ改善していく。

短期の指導計画や遊びや生活のまとまりとしての計画においては、「人格に関わる資質・能力」及び「知性に関わる資質・能力」のねらいに「思考に関わる資質・能力」のねらいが含まれていることが明確になるように、「思考に関わる資質・能力」が発揮、伸長すると想定している部分に下線をつけて表している。その際、「思考に関わる資質・能力」がどの「人格に関わる資質・能力」や「知性に関わる資質・能力」と関連しているのか丁寧に捉えようとしている。例えば、下の①のねらいでは、子どもが思考を働かせる場面を想定しているが、①は「人と物事を進める」の資質・能力を発揮、伸長することをねらっているため、目的のためにどう思考を働かせるかは、②や③など他の資質・能力と同時に発揮、伸長されることであると見え、①には下線を引いていない。

ねらい（「思考に関わる資質・能力」が発揮・伸長されることを想定している部分を下線で示す）	資質・能力の具体
①お店の準備を進めるために声をかけ合ったり話合いをしようしたり、つり上げられるクレーンにするために、考えたことを出し合ったり一人では難しいことを一緒にしたりして、一緒に作ろうとしたりする。	人と物事を進める
②つり上げられるクレーンや頑丈な武器などを作るために、 <u>素材や素材の使い方、仕組みを考えたり試したり、やってみてどうだったか考えたりしようとする。</u>	事物・現象を捉える
③作りたいクレーンゲームや武器に近づくように、 <u>色や形、廃材の組み合わせ、使い方などを考えたり素材の特徴を生かしたり友達の考えを取り入れたりして作ることを楽しむ。</u>	色や形に表す

（令和7年11月26日5歳児保育指導案より一部抜粋）

設定したねらいが達成されるよう、子どもの実態や発達に応じながら教師の援助や環境の構成及び再構成を計画している。その際、育みたい資質・能力との対応を明確に示している。また、教師の援助や環境の構成及び再構成は、意図と行為をセットにして表している。そうすることで、どんな資質・能力の発揮、伸長を支えるために、どういった関わりや環境の構成及び再構成を行うのか、明確にして保育を行うことができる。その時には、「思考に関わる資質・能力」についても、援助の方向性を明確に示した意図や行為の言葉に含み込んで表すことで、「思考に関わる資質・能力」の発揮・伸長を支える関わりを明らかにしようとしている。

ねらい（「思考に関わる資質・能力」が発揮・伸長されることを想定している部分を下線で示す）		資質・能力の具体
②つり上げられるクレーンや頑丈な武器などを作るために、 <u>素材や素材の使い方、仕組みを考えたり試したり、やってみてどうだったか考えたりしようとする。</u>		事物・現象を捉える
③作りたいクレーンゲームや武器に近づくように、 <u>色や形、廃材の組み合わせ、使い方などを考えたり素材の特徴を生かしたり</u> 友達の考えを取り入れたりして作ることを楽しむ。		色や形に表す
予想される子どもの活動	*環境の構成及び再構成 ◎教師の援助	◇評価の観点
<ul style="list-style-type: none"> ・作る場を準備する ・広告や新聞紙、廃材、折り紙、段ボール、布テープなどを使って武器を作る ・クレーンゲームの作り方を考えたり試したりして作る ・友達の作ったものを見る 	<p>*作りたいクレーンゲームや武器に必要なものを選んで作れるように、子どもが必要だと言っていた素材や作ろうとしているものに合う素材を用意しておく。</p> <p>◎素材や素材の使い方、仕組みを考えられるように、どんなものにしたいのか聞いて、素材の特徴を話しながらそれに合う素材や仕組みを一緒に考えたり、やってみてどこが上手くいってどこが上手くいっていないのか感じていることを言葉にしたりする。</p> <p>◎さらに工夫しようと思えるように、友達の考えている素材の生かし方や新たな発想を言葉にしたり見せたり、教師も刺激になるような物を一緒に作ったりする。</p>	<p>◇作りたいたものに合わせて材料を選んでいるか③</p> <p>◇素材や使い方、仕組みを試したり問題点を見つけて作り変えたりしているか②</p> <p>◇作り足したりいろいろな素材を試して使ったりしているか③</p>

（令和7年11月26日5歳児保育指導案より一部抜粋）

遊びや生活のまとまりとしての計画は、以下の遊びや生活について作成している。

3歳児～5歳児	「運動会 学年の遊び」（9～10月） 「発表会」（1月～2月）
4歳児・5歳児	「野菜の栽培」（4～9月、9～3月）
4歳児	「こま回し」（1～3月） 「5歳進級に向けて」（2～3月）
5歳児	「たき火」（11月～12月） 「お店屋さんごっこ」（11月～12月）

この他に、幼稚園年長児と小学校1年生との合同学習として、幼小の教師が共同で、幼稚園年長児と小学校1年生に同じねらいを設定し、学習の場を生み出してきている取組についても、新たなねらいの枠組みにより、計画、実践を行った。

合同単元学習（6～7月／3日間）	「グループの友達と「夏」や「水」のいろいろなことを感じて楽しもう」
合同単元学習（11月／4日間）	「秋を見つけてみんなで秋祭りを楽しもう」

交流単元学習（1月／1日間）	「お正月遊びをして一緒に楽しもう」
交流単元学習（3月／1日間）	「（実施予定）」

以上のとおり、新たなねらいの枠組みにより編成した本園のカリキュラムに加え、広く一般の保育者に、新たなねらいの枠組みによるねらいが分かりやすく、実践に活用しやすい形でまとめることにも取り組んでいる。その際、資質・能力の具体毎に、満3歳児から5歳児までの育ちの様相を示すことができ、かつ、学年毎の到達目標であると誤解されないように、ねらいの積み重ねが分かる層の形で表し、変化した部分が一目で分かりやすいように下線を引く工夫を行っているところである。

【資質・能力の 具体 が同じ】	満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児
【色や形 に表す】 色への感覚を豊かにしたり、色や形、質感、それらによって表されたものを思いのままに感じたり、そこから想像を広げたり、色や形、質感によって表す楽しさを感じたりする	感動・想像の表現【思いやイメージが表されているものから思いを感じ取ったり、イメージを広げたり、自分らしく表すことを楽しんだりしながら、感性や創造性を豊かにする】			
	○素材に塗られているうちに表現が生まれていく楽しさを感じる			
	○色や形で表されたものを思いのままに感じる			
	○色や形、組み合わせ方、質感で表されたものを思いのままに感じたり、そこから想像を広げたりする			
	○身近なものをいろいろなものに見立てる楽しさを感じる			
	○描きたいもの、作りたいものを思い浮かべて色や形を考えて描いたり作ったりする楽しさを感じる			
	○描きたいもの、作りたいもの、遊びに必要なものを思い浮かべて大きさや形、色、組み合わせ方、質感などを考えたり、いろいろな素材を使ったり、友達と表現を思いのままに感じ取り入れたりしながら、工夫して描いたり作ったりする楽しさを感じる			
	○描きたいもの、作りたいもの、遊びに必要なものを思い浮かべたりその特徴を捉えたりして、大きさや形、色、組み合わせ方、質感などを考えたり、素材の特徴を生かしたり、友達とすることを真似たり、友達と表現を思いのままに感じ取り入れたりしながら、細部までこだわって工夫して描いたり作ったりしようとし、その楽しさを感じる。			

新たなねらいの枠組みによるねらい 案（一部抜粋）

（3）編成した教育課程の内容の評価

本年度は、新たなねらいの枠組みの基になる資質・能力の見直し及び見直しを反映させたカリキュラムの開発に注力したため、実践の計画や実践後の振り返りの変化等から、その効果を捉えた。

○「思考に関わる資質・能力」の育ちの見取りの広がり

昨年度から子どもの姿に対して観点として十分であるか課題を感じていた「思考に関わる資質・能力」について検討し、整理、充実できたことにより、教師の意識が高まり、子どもの姿の見取りも広がり深まってきている。ドキュメンテーションの最後に、その遊びで見られる子どもの姿を資質・能力毎に記述しているが、そこに、「焦点化する」、「評価する」、「発想する」などこれまでに比べ多くの観点で「思考に関わる資質・能力」の捉えを示すようになってきている。

この遊びに見られる子どもの学び ○みんなが同じ道を走れるように、目印となるものを決めようとする。 ○空いている場所や進み方を考えて、ジャンピングや玉入れなど遊具の置く場所を考えている。 ○フープと縄がからまってしまふ、ボールが転がってしまうなど困ったことから、用具を分けて置いたりカゴに入れたりするとよいと考える。 ○縄は結んでいるとほどくのに時間がかかってしまうので、素早く使えるように、ほどいておいた方がよいと考える。 ○応援グッズを使った後の散らかっている様子を見てよくないと感じ、カゴに戻した方がよい、カゴに戻しやすいようにカゴを大きくした方がよいと考える。	資質・能力の具体 場や状況を整える 発想する 評価する 理由付ける 推論する
○ゴールやスタートがわかりやすいように、看板に文字を書いて知らせたらよいと考える。 ○自分たちのしている遊びがわかるように、していることや頑張っていることから名前を考える。	言葉に表す 発想する 抽象化する

（令和7年9～10月5歳児ドキュメンテーション「さくらぐみみんなのあそび」より一部抜粋）

また、3歳児の保育において、これまでは、遊びの中で「思考に関わる資質・能力」の表れはそれほど見られないと感じていたが、検討を進め、理解を深めることによって、3歳児なりの「思考に関わる資質・能力」の発揮、伸長する姿を見取り、教師の関わりや環境の構成から支えられるようになってきている。



3歳11月「乗り物遊び(どうくつ)」(一部抜粋)

<p>この遊びに見られる子どもの学び</p> <p>○先生や友達が作った蜘蛛を見てその表現に素敵さ、面白さ、不気味さを感じたり、自分も同じように作ってみたり、<u>自分の思い描く怖い生き物にするために、モールや箱などを選んだり、貼り付ける場所や形を考えて作ったり</u>することを楽しんでいる。</p>	<p>資質・能力の具体</p> <p>色や形に表す</p> <p>関連付ける</p> <p>発想する</p>
<p>○狭い道を洞窟と見立てて怖がったり、もっと怖くなるように毒蜘蛛やネチョネチョなど危険生物がいることにしたり、それらを作って洞窟に付けたり、<u>触れたらどうなるのかなどを想像して話したり</u>している。</p>	<p>演出・構成する</p> <p>発想する</p>

(令和7年11月3歳児ドキュメンテーション「乗り物遊び(どうくつ)」より一部抜粋)

さらに、「思考に関わる資質・能力」との関連を意識して子どもの姿を見取ること、子どもの姿を書き表す表現が子どもの思考の過程がより見える言葉に具体化されることも出てきている。

「場や状況を整える」の資質・能力の学び(5歳児)(担任の保育記録より)

(前)誰が走り終わったか分かるように、走り終えたら待つ場所を考える。

↓同時に「焦点化する」、「発想する」の資質・能力の伸長が見られる

(後)うまくいかなかったのは、誰が走って誰が走っていないのかが分かりにくい並び方をしていたからだと考え、誰が走り終わったか分かるように、走り終えたら待つ場所を考える。

このように、「思考に関わる資質・能力」の具体が整理され、幼児期に合った表現で捉え直し、設定できたことで、幼児期に育みたい「思考に関わる資質・能力」の具体や、「人格に関わる資質・能力」や「知性に関わる資質・能力」とともに「思考に関わる資質・能力」が発揮、伸長されることの具体が明らかになりつつある。

○資質・能力の具体のまとめ【感動・想像の表現】の資質・能力の具体の捉えを整理したことによる、ねらいや手立ての充実

これまで、【感動・想像の表現】のまとめりの資質・能力の具体について、造形、音楽、文芸、体の動きといった言葉に表れているような活動に、資質・能力の捉えが強く影響していた部分があり、子どもたちが絵本を見たり聞いたりして、絵や言葉から感じていること、展開から感じていることなどの全てが、「文芸に表す」の資質・能力で見取ったり育もうとしたりしている状況にあった。これらについて、資質・能力の捉えを整理し、方向性の言葉に明確に表していったことで、絵

本を読んでもらう活動のねらいが、「色や形に表す」、「言葉に表す」、「演出・構成する」など多様に設定される可能性が広がり、取り上げる絵本や子どもの育ちに応じて、より育みたい資質・能力の方向を明確にしたねらいの設定や援助ができるようになってきている。

ねらい（「思考に関わる資質・能力」が発揮・伸長されることを想定している部分を下線で示す）		資質・能力の具体
⑮画用紙やビニール袋、テープ、スズランテープなどの素材を使い、自分のイメージしたものを作ることを楽しんだり、葉の色の <u>綺麗さや色の違い</u> を感じたり、絵本の景色や絵を見て綺麗だと感じたりする。		色や形に表す
⑯絵本のトンネルに入り真っ暗になった場面で次のページはどのような景色になるのか楽しみにしたり、遊びの中でトンネルに入ることや次の景色、場所を想像して展開を楽しんだりする。		演出・構成する
予想される子どもの活動	*環境の構成及び再構成 ◎教師の援助	◇評価の観点
絵本『でんしゃでいこうでんしゃで帰ろう』を読んでもらう	◎絵本の景色や絵を見て綺麗だと感じられるように、ページをゆっくりとめくり絵をじっくり見られる間を作ったり、表紙や裏表紙を見せたりする。 ◎トンネルに入り真っ暗になった場面で次のページはどのような景色になるのか楽しめるように、トンネルに入ったように静かに間を開けたり、トンネルの先にのぞいている小窓を指差しながら読んだりする。	◇「綺麗」と呟いたり、じっと見つめたりしているか⑮ ◇じっと見たり「綺麗」と言ったりしているか⑯

（令和7年11月26日3歳児保育指導案より一部抜粋）

○「多様性を見つめる」の捉えの深まりによる教育課程の充実

多様性への理解を深めたり認めたりすることの重要性については、これまでも一定意識されてきたものの、本園のカリキュラムにおいては、明確な観点として位置付けられていなかった。資質・能力の見直しを進める中で、これまで文化の多様性に限定して捉えてきた「多様な文化を尊重する」の資質・能力を、文化に限らず、人の在り方や感じ方の違いなど多様性そのものに目を向ける資質・能力として再整理し、「多様性を見つめる」の資質・能力として位置付け直した。これにより、これまで十分に扱われてこなかった多様性への寛容性を育む視点を、カリキュラム上に明確に位置付けることができている。その結果、4歳児の10月頃に特に見られた、人の外見や性に関する言葉を、相手の立場や思いへの配慮が十分でないまま発したり、嘲笑したりする姿に対して、より意図的な働きかけを行うことにつながった。具体的には、人の外見や性などが多様であり、そのいずれもが大切であることを感じ取ることのできる絵本の読み聞かせを行ったり、子ども達にとって身近な事例を基に、人の思いについて考え合う話し合いの場を設けたりするなど、子どもたちが多様性に向き合う教師の関わりや環境の構成が充実されてきている。

○尼崎市立幼稚園での神戸大学附属幼稚園の資質・能力を活用した実践による実践データの収集及び検証

第二年次は、神戸大学附属幼稚園においては、資質・能力の詳細な捉えの見直しを実践とともに進めている。また、尼崎市立幼稚園においては、見直した神戸大学附属幼稚園の資質・能力を活用した実践を行い、実践データの収集を進めている。今年度事例は以下の11事例である。

4歳児	「青ちゃん（ロバ人形）がご飯を食べやすいようにしよう」	竹谷幼稚園
	「マイクをつくりたい」	長洲幼稚園
	「いいでしょ～」	大島幼稚園
	「家でたまご（スーパーボール）を転がしたい」	武庫幼稚園
	「ぐるぐる回るコースをつくろう」	園田幼稚園
5歳児	「金魚だけすくいたい」	立花幼稚園
	「段ボールを切ってちょうどいい大きさの壁をつくろう！」	塚口幼稚園
	「最後までドングリを転がしたい！」	園和北幼稚園
	「木の家に合う机をつくろう」	小園幼稚園

尼崎市立幼稚園においては、保育指導案やドキュメンテーションについても、神戸大学附属幼稚園の資質・能力の観点を活用し、作成している。

今年度は取り掛かれていないが、今後、神戸大学附属幼稚園の実践から得られた実践データと合わせて、ねらいの枠組みの検証を進める。また、指導方法についてもデータ収集及び整理を進めるが、蓄積された実践データを資質・能力の具体毎に見ると、量の偏りや時期にばらつきがあるため、特に指導方法の示し方については検討が必要である。

○新たなねらいの枠組みによる満3歳児から5歳児のねらい一覧の作成への課題

広く一般に分かりやすく、実践に活用しやすい形で、資質・能力の具体毎のねらいを示そうと取り組んでいる。その際、学年毎の到達目標に見えないようにしながらもねらいの変化や積み重ねが分かる表記でまとめようとしている。それに加え、今後、これら「人格に関わる資質・能力」と「知性に関わる資質・能力」の項目で示されたねらいに「思考に関わる資質・能力」のねらいがどう含み込まれているのか関連を示していくことや、幼稚園教育要領で示されているねらい及び内容や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が網羅できているか、どこに含まれているかなどの関係も整理していくことを検討している。

5 研究開発の成果

(1) 子どもへの効果

a. 詳細な観点の資質・能力カリキュラムによる多様な資質・能力の発揮、伸長

本園の見出している資質・能力の観点で作成した教育課程に基づいて実践及び実践後の園内研修や振り返りを実施している。子どもへの効果については、ドキュメンテーションでまとめた学びの記述や、実践記録における資質・能力を発揮、伸長している姿の記述から、育ちを捉えることができる。

< 第一年次 >

以下の具体に示す資質・能力の発揮、伸長に効果が見られたが、特に、資質・能力の捉えを大きく見直した「自分のことを知る」の資質・能力について、教師がより意識して子どもの姿を見取ったり、子どもの姿を基にねらいをもち実践に当たったり、実践の省察を行い、3年間を見通してねらいや関わりを検討したりすることから、子どもへの効果が大きかったと考える。

< 第二年次 >

資質・能力の捉えを広げたり整理したりした「多様性を見つめる」、「文芸に表

す」、「演出・構成する」の資質・能力について、特に子どもへの効果が大きかった。

＜第一年次＞

- ・お弁当の用意をする場面の実践事例検討の際、机の拭き方に対してどのような意図をもってどのような援助をするとよいのか職員間で協議したことで、その後の保育実践の中で、手にあった大きさに布巾を畳むことの必要やよさを感じられるようにと意図を明確にした援助を行うことができ、子ども自身が布巾で拭いた部分の拭き跡を確かめたり、拭けていない部分があることに気付き、布巾を畳み直して拭いたりするなどの変容が見られた。
- ・「事物・現象を捉える」の資質・能力の月の指導計画の充実により、ホットボンドを扱う時期について検討でき、子どもが木工ボンドとの違いを感じたりホットボンドの特性に驚いたりする姿につながった。
- ・資質・能力カリキュラムにより多様な観点をもっていることで、結婚式ごっこを楽しむ3歳児の遊びを支える上で、子どもの姿に変容が見られたときに、幅広い方向性で学びの可能性を広げることができた。実際に、なりきって踊る「身体の動きを表す」の資質・能力や衣装を作る「造形を表す」の資質・能力に向けての援助から、子どもの姿の変容に合わせて「演出を表す」の資質・能力を支える環境の構成を行うことで、子どもが多様な資質・能力を発揮、伸長することができた。
- ・教師が、育みたい資質・能力の方向性を明確にして子どもに言葉がけをすることで、子どもたちは何を問われているのか、考えることが明確になり、その方向に向けて深く考えるなど確かに学びに向かう姿を見取ることができた。

＜第二年次＞

- ・「多様性を見つめる」の観点を明確にもち、人の外見や性などが多様であり、そのいずれもが大切であることを感じ取ることのできる絵本の読み聞かせを行ったり、子ども達にとって身近な事例を基に、人の思いについて考え合う話し合いの場を設けたりするなど、多様性に向き合う機会を意識的に作ったことで、子ども達は「そういう人もいるんだよ」と受け止めたり、自分とは異なる行動をとる友達に対しても「〇〇くんはそうしたい気持ちだったんじゃない？」と解釈したりする姿が見られるようになっている。子ども達が違いを否定的に捉えるのではなく、多様な在り方として肯定的に受け止め、認めようとする態度が育まれてきていることがうかがえる。
- ・絵本の場面で、これまでは絵本の絵、言葉、展開全て「文芸を表す」の資質・能力と捉えていたが、絵本を読む、読んでもらうの活動の中においても、言葉にねらいをもつのか、絵や展開にねらいをもつのか、などといった、絵本がどの子どもの資質・能力の具体の発揮、伸長に教材として活用できるのか、逆にどの絵本が目の前の子どもたちの育ちに有効か、深く教材研究をし、取り入れるようになった。
- ・「演出・構成する」の資質・能力の見直しにより、遊びを面白くするためにルールや遊び方、設定などを考える学びを捉えやすくなった。今までは、ルールや遊び方、設定と一緒に話し合っただけでいく「人と物事を進める」の資質・能力に重点を置いて環境の構成や援助をしていたが、「演出・構成する」の資質・能力を意識して援助していくことで、話し合いの中身への意識が高まり、今まで意識して支えたり見取ったり言葉にしたりできていなかった遊びを面白くするために考える子どもの姿（学び）も捉えることができた。

また、地域の保育者の研修の場として実施している幼児教育を考える研究会において、参加者には、指定した遊び（各学年から三つ程度）を参観し、本園の見出している資質・能力の観点で見取った学びを「学びのカード」に記入してもらい、協議を行っている。参観者の書いた学びのカードには、多様な資質・能力の育ちが見取られていた。これは、本園の子どもに多様な資質・能力が育っていると、外部の保育者からも評価されていると言えるだろう。

＜第一年次＞

- ・本園の見出している資質・能力 41 のうち、23 の資質・能力について、参観者が学びと捉えた子どもの姿の見取りがある。

＜第二年次＞

- ・本園の見出している資質・能力 40 のうち、25 の資質・能力について、参観者が学びと捉えた子どもの姿の見取りがある。

b. ドキュメンテーションによる資質・能力の発揮、伸長

ドキュメンテーションの掲示や、子どもとともに作り、遊びの過程を書き表していくドキュメンテーションの活用による、子どもの育ちが認められている。

<第一年次>

以下の具体に示すように、「自ら決める・選ぶ」、「自分に満足する」、「他者のことを知る」、「生き物・命を見つめる」等の資質・能力の発揮、伸長が確かめられた。

<第二年次>

一年次と同様に「自ら決める・選ぶ」、「充実感を得る」、「他者のことを知る」の資質・能力への効果が大きいことが認められており、さらに「自分のことを知る」の資質・能力の発揮、伸長への効果も認められた。

<第一年次>

- ・日々の遊びの積み重ねを表すドキュメンテーションを作成し、子どもが見える場所に掲示しておくことで、どんな遊びをしようか迷っている子どもも、ドキュメンテーションを見て、他の友達がどんな遊びをしているのかを知り、自分のしたい遊びを決めて遊ぶ姿や、遊びの続きがしたいと思っている子どもが具体的にどんな遊び方をしていたか思い出す姿などの遊びに向かう姿があった。
- ・好きな遊びや園での生活をドキュメンテーションにして掲示することで、「こんな遊びしていたんだ」、「音楽隊の演奏会、今日はするの?」と子ども同士で会話が広がったり、友達のしていることを知る機会にもなったりしている。
- ・ドキュメンテーションを見て「こんなにジャンプしてたんや」、「真剣な顔をして走っている」、「〇〇ちゃん楽しそうにダンスしている」など、自分や友達の遊んでいる姿を客観的に見ることができ、「自分もやってみたい」と遊びを広げるきっかけになったり、「〇〇ちゃんすごいね」と他者のことを知るきっかけになったりしている。
- ・運動会のドキュメンテーションでは、頑張った自分を思い出し、頑張っている姿に満足している様子が見られた。
- ・お店屋さんごっこの活動をしている際に、したいことをお店のグループごとに付箋に随時書き残せるようにした。それを子どもがいつでも手に取れる場所に置いておくことで、毎回の活動の終わりに、しようと思っていてまだ残っていることを思い出したり、しようと思っていることの順番を、付箋を並べ変えながら考えたり変えたり、終わったこととこれからすることを子ども達自身で整理したりするようになった。

<第二年次>

- ・ドキュメンテーションを見て自分が取り組んでいた遊びを振り返ったり、次にしたいことを思いついたり、自分のしている遊びに満足したりすることに繋がっていた。
- ・ドキュメンテーションに写真をあげて保育室内に掲示することで、子どもたちが遊びに向かうきっかけになったり、したい遊びが見つかるきっかけになったりしている。また、ホームページにもあげているため、写真を見て親子間の関わりが増えたり3歳児は友達の名前を覚えるきっかけになったりしている。
- ・ドキュメンテーションを子どもたちの目に触れる場所に掲示することで、園外保育で楽しかった出来事を振り返ったり、運動会で自分が頑張ったことを改めて実感したりする姿が見られた。また、それをきっかけに友だち同士で思い出を語り合う様子も見られ、経験を共有する場となっていた。
- ・ドキュメンテーションを掲示したことで、友達の好きなことや頑張っていること、楽しんでいることを知る姿が見られた。また、遊びの振り返りの場面では、友達の考えやこれからやってみたいことを尋ねたり、好きな遊びの時間に実際に見に行ってみたりする様子もあった。

共に研究開発を進める尼崎市立幼稚園で見られた子どもへの効果を以下に挙げる。

<第二年次>

ドキュメンテーション及び教師の関わりから

- ・遊びの中で育てたい様々な資質・能力を考慮しつつ、今の幼児の様子や資質・能力の育ちに応じたイラストや写真の掲示をすることで、海賊ごっこでは道具をバリエーション豊かにつくったり、細かいところまで工夫したりするなど個々の幼児が自分のイメージを自分で考え表現する姿につながった。また、掲示と意図を合わせた教師の関わりを行うことで、考えを積極的に言葉にしながら動作や表情、声の調子などで表現する楽しさを感じることに繋がった。
- ・5歳児のしっぽ取りの遊びで、写真の掲示から手を伸ばす友達が考えていることを見て分かったり、動きの理由を考えるヒントを得たりして、試し工夫する姿につながるなど、ド

キュメンテーションに『神戸大学附属幼稚園 カリキュラムにおける観点』を活用することで、教師が支えたい育ちにポイントを置いた写真を意識して選び言語化（文字で記載、言葉で伝える）することになり、幼児が自覚していない無意識的なことよさや身体を動かすコツなど、視覚を通して自覚するきっかけになっている。

様々な視点をもって保育を行うことから

- ・資質・能力の様々な観点から幼児をじっくり観察した時に、一人一人の強み、弱みが見えてきたり、細かく見ることで支えるべき点に気が付いたりすることにつながった。知性につながる部分で、数か・空間か・語彙かなど様々な観点で見取ろうとすることから、より細かくポイントを絞った必要な援助ができ、幼児がより遊び込める姿につながった。
- ・遊びの中で育つ「知性につながる資質・能力」を、ハロウィンごっこにおいては「音楽に表す」、「身体の動きに表す」、「演出に表す」、「造形に表す」の資質・能力を中心に複数に視点を置いて考えるなど、視点を多くもち環境にその種を蒔くことで、音楽に合わせて音を鳴らしたり、リズムに合わせて踊ることを繰り返したり、素材を組み合わせることで衣装をつくったりして個々の幼児が自分のやりたいことに向かって繰り返し遊ぶことにつながった。

(2) 教師への効果

a. 子どもの姿の見取りの深まりからよりよい実践へ

詳細で具体的な資質・能力の観点を持ち、保育を計画したり実践記録やドキュメンテーションで言語化しながら保育を振り返ったりすることを通して、子どもにどんな資質・能力が育まれているのかを詳細に見取る力が高まっている。また、資質・能力の捉えの見直しを丁寧にしたことで、詳細で多様な資質・能力の具体の一つ一つの捉えが明確になり、ねらいや援助、環境の構成を明確にした実践や総合的な指導を行うことができている。

<第一年次>

特に、「自分のことを知る」の資質・能力を発揮、伸長する姿の見取りや3年間を通したねらいや手立てのあり方について、事例検討やカリキュラム・マネジメントで明らかにし共有することができた。また、10の「思考力」の資質・能力に対しては、「人格形成の基礎となる資質・能力」及び「知性につながる資質・能力」のねらいに含み込んで育もうとしているものと、まだ十分に表すことができていない部分やねらいとして意識できていなかった部分があることが明らかになり、思考力の資質・能力の見取りやねらいのもち方を見直すことへの意識が高まっている。

<第二年次>

新規採用教員も含め、本年度からこのカリキュラムの視点で保育を始めた教員からも、詳細な観点の資質・能力を検討したり、活用して計画を立てたり見取ったりすることにより、自身の幼児理解や援助への効果が挙げられている。また、「思考に関わる資質・能力」の捉えや関係性が整理されたことにより、「思考に関わる資質・能力」の見取りの深まりや援助が広がり、さらに、「問題解決力」を問題解決の思考のプロセスと捉え直したことにより、問題を認識できるようにすること自体を目的として行動を引き出そうとする関わりから、問題を認識する過程における思考の質を高め、担保しようとする関わりへと、保育者の意識と実践が転換しつつある。問題解決の場面において、子どもの思考の過程や質に着目した援助が増加しており、「思考に関わる資質・能力」の着実な育成にもつながっている。

<第一年次>

- ・ドキュメンテーションの作成を通して、遊びで育っている資質・能力を改めて確かめることができたり、実践している際には思っていなかった資質・能力の育ちがあることに気付いたりしている。一方で、実践している際には育っていると思っていた資質・能力が、改めて子どもの姿から振り返ると、思ったような姿が表れていないことにも気づき、自分の保育のねらいや援助を振り返る機会となっている。
- ・資質・能力カリキュラムの作成や検討により、自分が見取りにくい資質・能力が明らかに

- なり、その資質・能力をより意識して見取ろうとすることに繋がった。
- ・作成した実践事例を検討する中で、自分が見取れていなかった子どもの内面や行動の可能性を他教諭から助言してもらうことで再考する機会となり、幼児理解が深まった。そのことにより、より有効な関わりや援助の仕方を発見することができた。
 - ・教育課程のねらいの中に含み込まれている思考力を捉え直すことで、今までは思考力と捉えていなかった部分にも思考力が含まれている可能性に気づき、今後の保育でより意識しようと思うことにつながった。
 - ・思考力を含めたねらいをあまりもてていなかった3歳児においても、積極的に思考している姿を見取ろうとしたり、ねらいとしてもったりしようとする意識が高まった。
 - ・ねらいをもつ時点での思考力の資質・能力の視点が弱かったことを改めて認識した。現在の思考力の数や定義等、小学校以降の思考力も見通しながら、見直していきたい。
- <第二年次>
- ・一つずつ丁寧に資質・能力の見直しやカリキュラム・マネジメントを確認し合うことでより理解が深まり、今まであまり意識できていなかった資質・能力を意識して保育しようと思うきっかけになった。また、絵本の場面では「色や形に表す」や「言葉に表す」、体を動かす場面では「体の動きや感覚を磨く」や「体の動きに表す」、「事物・現象を捉える」といった資質・能力について、子どもの目線や動きから詳しく見取ろうとした。
 - ・子どもが疑問や問題を感じたり発想したりしている場面には、3歳児なりの「思考に関わる資質・能力」が存在していると考えようになり、どのような思考が流れているのか観点をもって子どもの姿を捉えようとするようになってきた。想定していた姿が見られないこともあったが、それも含めて子どもの思いをより明確に理解することができた。
 - ・保育を計画するにあたり、これまでは「人格に関わる資質・能力」と「知性に関わる資質・能力」の発揮、伸長を思い浮かべて遊びの環境を構成、再構成することが多かったが、「思考に関わる資質・能力」について深く考えるようになり、遊びの環境を振り返る際や計画をする際に、「思考に関わる資質・能力」が発揮、伸長されるしかけが環境の中に存在させられているかという視点で確認するようになった。また、その場に子どもが近付いた時の「思考に関わる資質・能力」を育む関わり方を事前に想定するようになった。
 - ・「思考に関する資質・能力」について見直し整理することで、ドキュメンテーション作成時など子ども達の考えていることや学びを書き表す際に、言葉が具体的で思考の過程を含めた表現になった。
 - ・検討を通して、今までは想定していなかったところにも「思考に関する資質・能力」の発揮、伸長が想定できると感じるようになった。例えば、お店屋さんごっこの準備をグループで進める中で、お店を開く日が迫っているが、まだクレンゲームが完成しておらず、一方で、商品の数が十分ではない時に、どちらもできるようにグループの半分ずつで分担して進めようとするという「人と物事を進める」の資質・能力を発揮、伸長する姿には、日が近付いている状況やし残していることなど複数のことを踏まえて考えるとといった「総合する」の発揮、伸長があると捉えられるなど、見取る視野が広がった。
 - ・これまで問題解決力の一部として捉えてきた「問題を認識する」等の資質・能力を、個別の資質・能力の具体としてではなく、問題解決に至る思考のプロセスとして捉え直した。この再整理により、問題解決の場面を支える際、問題を認識したという結果そのものを一律に「問題を認識する」の資質・能力の発揮として評価し、支えるのではなく、問題認識に至る過程において、どのような「思考に関わる資質・能力」が発揮、伸長されているのかを丁寧に見取る視点が明確になった。具体的には、「比較する」、「関連付ける」、「推論する」、「発想する」など、「思考に関わる資質・能力」のどの側面が働くことで問題を認識しているのか、また、どの力を支えることで問題認識に至るのかを意識して、見取りや援助を行うようになった。

b. 育みたい資質・能力の方向性を明確にした関わりへの意識の高まり

教師の援助や環境の構成及び再構成を、育みたい資質・能力の方向性を明確にした意図と行為をセットにして指導計画に表すことや、実践事例の作成や検討で自分の行った関わりの意図を言語化し振り返ることを続けることで、普段から、子どもにどの資質・能力の方向での育ちを願って関わるかを明確にして関わろうとしている。さらに、多様で詳細な資質・能力の観点をもっていることで、子どもの遊びや思いの変化に、見通しをもち、余裕をもって保育に臨めるよさも感じられている。

<第一年次>

- ・資質・能力の観点をもち、どの方向性なのか確かめながら援助や意図、環境を組み立てているので、教師がどんなことをねらいたいのか、支えたいのかを明確にもつことができる

ようになった。

- ・意図と行為をセットにした援助、環境の構成が必要であることを意識し、座席の配置、朝の何気ない会話、園庭の環境など一つ一つについて、なんとなくしてしまっていることはないか、意味もなくそのままになっている物はないか、批判的な目で自身の振る舞い、環境について日々見つめ直している。
- ・実践事例の作成を通して、一連の子どもの事実一つ一つに、どのような資質・能力の発揮、伸長が見られたか丁寧に省察し、学びに向けてどのような援助を行ったか、その援助は有効だったか、振り返ることができた。その場では咄嗟に発した言葉にも、その時どんな意図をもっていたのか言語化することによって明確にすることができた。
- ・今年度自身の課題意識のある「食を見つめる」の資質・能力についての事例を作成し、職員で検討したことで、「食を見つめる」の資質・能力の見取りやそこに向けた教師の援助や環境の構成を改めることができた。

<第二年次>

- ・実践事例を作成する過程で、「子どものこの姿には、他の新たな解釈があるのではないか」、「別の資質・能力が発揮されているのではないか」といった点を事実に基づいて振り返ることができ、保育中には見えていなかった子どもの姿に気付くことで、新たな援助の方法を見出すことにつながり、保育者自身の資質向上になっている。
- ・意図と行為をセットにした援助を意識することで、意図につながる言葉選びや関わりを考え、行動に移すことにつながった。
- ・実践事例の作成を通して、自分の関わりを振り返り、自分の発言が子どもの学びを支えられていたのか、言い方や関わりを変えた方が意図することにつながったのではないかと自身の保育を見直す機会になったり、子どもの具体的な姿からその時の気持ちや考えられることを捉え直したり視野を広げて考えたりすることにつながった。
- ・「高級レストランごっこ」の初期段階において、料理を作りたい、本物の料理みたいな料理を作るために材料を探したいという姿が見られたため、「自ら決める・選ぶ」や店員になりきって表現する「体や動きに表す」といった観点を大切にしながら関わった。その後、子ども達は料理だけでなく、接客の仕方や内装にも目を向け、より高級レストランらしくしたいという考えをもつようになった。そこで、「演出・構成する」の観点から、必要な物を用意したり、環境を構成・再構成したりしながら援助を行った。このように、詳細な資質・能力の観点をもって保育をすることで、子ども達の思いが変化していても、見通しをもち、余裕をもって関わるすることができた。

c. 3年間及び小学校以降の学びの見通し、学びのつながりへの意識の高まり

教育課程や長期の指導計画及び遊びや生活のまとまりとしての計画を基に保育を計画したり振り返ったりすることや、毎学期末にカリキュラム・マネジメントを行うことで、3年間の学びのつながりを意識することができている。また、小学校の教師と共通の観点で指導計画を作成し、実践、見取り、振り返りを行うことで、小学校教育とのつながりをより具体的に知ることができている。

<第一年次>

月の指導計画に加え、子どもに経験させたいことを遊びや生活ごとに整理した遊びや生活の見通し案を作成したことで、3年間の経験や学びのつながりを明確にし、その時期に必要な関わりを見直すことができた。また、文部科学省の三つの資質・能力への理解を深める中で、小学校以降の資質・能力の捉え方や評価の仕方、思考力の育ちについて考えることとなり、小学校以降の資質・能力の育ちへの意識も高まった。

<第二年次>

丁寧に資質・能力の捉えの見直しを行ったことが、遊びや生活のまとまりとしての計画やカリキュラム・マネジメントにおいて、3年間の学びのつながりや育ちの見通しをもつことにもつながっている。また、小学校教諭と共通の観点で実践や振り返りを共にすることで、小学校以降の学びや教師の関わりについて具体的に話し合うことができている。その中で、子どもの姿をより詳細に見ようとする小学校教諭の意識が高まっていると感じる一方で、詳細な観点毎にねらいをもち、対応して

援助を考えていくことを初めて行う教師にとって、丁寧に分けて見取ったり、援助を考えたりすることは、容易なことではなく、共に協議・実践しながら共有していく必要があるとも感じている。今後、小学校教諭の感じている効果についても調査を行っていく。

<第一年次>

- ・運動会におけるリズム表現や生活発表会に向けて、遊びや生活のまとまりの計画を作成した。長期の遊びにおいて様々な資質・能力の方向に向けての学びが見られるようにすること、時期ごとにねらいとそれに応じた援助を意識的に変容させていくことを事前に計画・把握しておくことで、見直しをもって進めていくことができていく。
- ・カリキュラム・マネジメントに向けて学期末に学年担任と振り返ることで、各資質・能力を通して担任する学年の子どもの姿や環境を見直す機会になったり、他学年と共有することによって見直しをもったり新たな可能性を考えたりする機会となった。
- ・資質・能力ごとに生活面のことを捉えることが多かったが、生活の見直し案を作成、整理することで、3年間の発達を見通して生活をどう変えていくのがよいか考えるきっかけとなった。5歳で伝えたり経験させたりしていることであるが、本来はもっと前から経験した方がよいと思ったことは他学年と相談したり、見直したりすることができた。
- ・カリキュラム・マネジメントにおいて、子どもの育ちを資質・能力ごとに振り返るとともに、他学年と姿を共有し合うことによって、見直しをもって関わり方を変えていく意識をもつことができていく。特に、遊びや生活の見直し案の作成において、身支度や弁当場面などで、一つ一つ丁寧に段階を踏んで生活経験を重ねていけるように3歳児で関わっていることを、細かいことも意識的に言語化して集積した。他学年と共有し合うことによって、どう関わっていくべきか考え、実践するきっかけとなった。
- ・文部科学省の示す三つの資質・能力と本園の見出している資質・能力の関係性を明らかにするにあたり、小学校教育における三つの資質・能力の評価についても学び、三つの資質・能力について理解を深めたり、学びのつながりを意識したりすることができた。また、思考力についても小学校以降の育ちも見直しながらかん見直す必要性を感じている。

<第二年次>

- ・遊びや生活のまとまりとしての計画を作成することで、長期的に展開する遊びであっても、時期に応じて子ども達に育みたい資質・能力を明確に捉えることができた。その結果、より具体的な援助や関わりを意識するようになり、保育に見直しをもって取り組むことができた。
- ・資質・能力の具体毎の月の指導計画を一つずつカリキュラム・マネジメントすることで、子どもの実際の姿を改めて見つめたり、自分の保育に欠けていた働きかけに気付いたりすることができたと感じる。また、自分の担当している学年だけでなく、3、4、5歳のねらうポイントの違いや移行のタイミングについて広く見つめようという意識の高まりに繋がった。
- ・5・6歳実践において、幼稚園のカリキュラムの観点で指導計画を作成することで、小学校の先生と、何を意図して具体的にどうするのか援助を考える際に、意図が明確になり、そのためにどうするのかを検討しやすかった。また、この観点で学びを見取ることで、小学校の先生にとっても子どもの事実をより詳細に見ようとする意識につながったと感じる。
- ・5・6歳実践の計画をする際に、子どもたちの話し合いの場面において、詳細な資質・能力の観点があることで、「他者という喜びを感じる」、「他者のことを知る」、「自分のことを伝える」、「他者のことを考えて行動する」、「人と物事を進める」の資質・能力の発揮、伸長が想定されるということを小学校の先生にも理解してもらいやすかった。そのことで、それぞれの資質・能力に向けて、どう援助するのか、言葉を整理し、明確にすることができた。
- ・小学校教諭と共に展開案や日案を検討する際、資質・能力の観点を用いて協議を進めたことで、幼児教育と小学校教育それぞれにおける、遊びの中で育みたい資質・能力やねらいを具体的に出し合うことができた。例えば、「言葉に表す」の資質・能力について、幼小双方の教師が、活動の最後の振り返りにおいて、子どもが自分の考えを表現できるように振り返りの視点を共通にするなど意図的に関わっているが、加えて小学校の教師は、子どもたちの考えをさらに文章化するための援助も行っていることを検討の段階で知り、小学校以降の学びの連続性やつながりについて理解を深めることができた。
- ・指導案を作成する際、資質・能力毎にねらいを詳細に設定することで、保育（学習）の中で見られる子どもの具体的な姿を予想したり、その育ちの可能性や必要な環境の構成について検討したりすることができ、教員間で共有しやすかった。一方で、ねらいや援助等を記入する際、複数の資質・能力の観点に捉えられる複合的な表現の仕方をされることがあり、どの観点として整理するかを共有することの難しさも感じた。

d. 保護者等への発信力の高まり

詳細な資質・能力の観点での子どもの見取りを言語化したり、教師の関わりを意図と行為をセットで言語化したりすること、また、言語化された事例等を基に職員で検討することを通して、子どもの学びや学びの過程、教師が大切にしていることを発信する力が高まっている。

<第一年次>

- ・ドキュメンテーションの作成により、遊びの中の学びを言語化し、発信する力が培われていると感じる。意識的に文字に起こす経験を繰り返すうちに、日々の保護者への降園連絡や懇談でも、大切にしていることや今子どもが学んでいることについて以前よりもポイントを押さえて話せるようになってきている。

<第二年次>

- ・参観や日々の降園連絡だけでは伝わりにくい子どもの姿や育ち、教師の関わりや意図、環境の構成、遊びがどのように深まっていくのかという過程を、ドキュメンテーションで可視化することができた。それらを保護者に向けて発信することで、保護者と子どもの育ちを共有することができている。

共に研究開発を進める尼崎市立幼稚園で見られた教師への効果を以下に挙げる。

<第二年次>

教師の意識から

- ・指導案、週案、事例を書く際にカリキュラムの観点をうけてきたことで、幼児の遊びや活動の中で当初捉えていた以外にも学びにつながる資質・能力があることに気付けるようになった。桶の遊びでは、玩具がゴールまでいかず途中で止まることに幼児が疑問をもった時、桶の組み方を変えて高低差を付けると上から下に水が流れる「事物・現象を捉える」の資質・能力、水をくむ道具を大きい物に変えたり、数を増やしたりする「数・量を捉える」の資質・能力など、解決したい思いを支える時に複数の資質・能力が考えられるようになるなど、教師がどういう資質・能力を意識するのか、幼児と相対する時に整理して対応することができるようになった。
- ・運動遊びで「身体を操作する」の資質・能力では、幼児が自分の体の動かし方を意識できるように、体の使い方について事実を言葉にすることや、「数・量を捉える」の資質・能力では、素材を選ぶ時に幼児が作りたい物に合う大きさを選べるような大きさの違う素材を準備するなど、「知性につながる資質・能力」を特に意識するようになった。子どもに何を育てたいかによって、道具や素材などの環境の準備の工夫や声を掛ける言葉の精選を心掛けて保育に向かうようになっている。

援助や環境の工夫から

- ・週案や記録、話し合いやドキュメンテーションの作成でカリキュラムの観点を活用することで多方面に渡る幼児の育ちやひとつの遊びの中で様々な資質・能力を育むことへの意識をもつようになった。お化け屋敷の遊びでは、驚かす声や表情、動きに表すことや、方法を考え役割を相談する幼児の実態から「体や動きに表す」、「自分のことを伝える」、「人と物事を進める」、「演出・構成する」の資質・能力の育ちを見取り、教師も遊びの一役を担いながら幼児の動きや表現のよさや仕掛けを工夫している点について返したり、考えたことを友達に伝える機会や疑問を投げ掛けて皆で考える機会をつくったり、試行錯誤する道具の準備など、より効果的となる環境の準備や援助を考え行うことにつながった。
- ・幼児の育ちを資質・能力で捉えてきたことで、指導案を書く際には複数の遊びに渡って同じ資質・能力の育ちであっても、遊ぶ幼児の姿や遊びの取り組み期間等によって育ちを書き分けて考えられるようになった。「人と物事を進める」の資質・能力において「イメージを共有して考えられるように」、「友達に考えを伝えたり友達の考えを聞いたりして進められるように」など、支える部分を明確にした上で意図を細かく考え援助を行うことにつながっている。

園内の話し合いから

- ・カリキュラムの観点を個々の教諭が保育を考える際に用いてきたことで新たな視点について話し合うことができるようになり、スーパーボール転がしの遊びについての事例を園内で検討する際には担任が捉えていなかった「形を捉える」という資質・能力を見出すことにつながった。複数の職員でなぜその資質・能力として捉えたのかを話し合い、考えを明確にすることで、幼児の行動から育ちを捉える視点を多面的にもてるようになった。
- ・カリキュラムの観点をうけて事例検討等を行ったり保育を考えたりする経験を積み重ねる

中で、幼児に対する見取りや計画について園内外で根拠に基づく議論ができるようになった。

(3) 保護者や地域社会への効果

a. 保護者による資質・能力を意識した子どもの見取りや関わり

保護者に対しては、子どもの具体的な資質・能力の育ちをドキュメンテーションで発信したり、本園で見出している資質・能力の観点による教育課程を基に子どもの実態やねらいを共有したり、具体的なねらいを示して保育参観や保育参加に取り組んでもらったりしている。それらの感想の中には、本園の見出している資質・能力の観点で子どもの成長を捉えている保護者や、具体的に多様な観点から子どもの姿を捉えている保護者が見られている。教師の感じている具体的な効果を下に示す。

<第二年次>

- ・参観や日々の降園連絡だけでは見取りにくい子どもの姿や育ち、教師の関わりや意図、環境の構成、遊びがどのように深まっていくのかという過程をドキュメンテーションで可視化し、保護者に向けて発信することで、保護者と子どもの育ちを共有することができている。
- ・資質・能力カリキュラムを基にした保育における意図を、保護者の方と共有して園外保育やこま回しといった保育参加を実施することで、保護者が具体的なねらいをもった言葉がけをしたり、子どもの姿から育ちを感じ取ったり、教師と同じ方向で関わろうとしたりする意識が高まっている。
- ・4歳児10月のドキュメンテーション「芋掘り」において、遊びや生活の中で見取られた、子どもが「体の動きや感覚を磨く」の資質・能力を発揮・伸長している姿として、「サツマイモのくぼみや重さの僅かな違いを感じ取る」姿を記載した。また、4歳児11月の「あきがいっぱい」においては、「落ち葉や木の実などの色や感触の僅かな違いを感じ取る」姿を、同様に資質・能力の発揮として位置付けている。これらはいずれも、従来の「身体を操作する」の資質・能力の枠組みでは捉えきれず、発信することのなかった子どもの姿である。このような姿を可視化し、共有することにより、保護者が子どもの育ちをより多面的に理解することにつながっていると考えられる。

また、年度末に保護者に対して行う学校評価アンケートにおける「園は、指導方針や教育活動のねらい、子どもの実態をわかりやすく伝えている」かの問いに対し、詳細な観点でのねらいや意図を明確にした関わりへの評価を得られていると考えている。

<第一年次>

- ・令和5年度の回答に「懇談会で指導方針の確認があったり、保育参加や行事の度に活動のねらいや、クラスでの様子やねらいの掲載があったりするので、どういう意図をもって活動しているのかが分かりやすく、保護者もどういう意図をもって動けばいいのかが考えられる」などといった記述が見られる。

<第二年次>

- ・令和6年度の回答に「常にねらいや方針をドキュメンテーションに載せてもらっているので分かりやすく、家庭での関わりに生かそうと思う」、「園にお任せではなく、家庭としてサポートする位置が分かり、園と伴走して子どもに関わる意識がもてている」、「参観などの際の子どもの見る視点の参考にとともなり、成長を把握できるようになった」と肯定的な記述が多く見られる。

資質・能力の見直しを丁寧に継続していたため、現在取り組んでいる研究課題及び内容について、本園の保護者に示し理解と協力を得られるような働きかけや調査については、本年度は実施には至っておらず、数値での効果の検証はできていない状況である。

共に研究開発を進める尼崎市立幼稚園で見られた保護者への効果を以下に挙げる。

<第二年次>

・『資質・能力とは生涯にわたってよりよく生きるために必要な心や体の働きについて、遊びや生活を通して総合的に育まれるものである』ということ伝えた上で、保育参観などの際に保育を見て幼児の育っていることについて保護者にメモをとってもらい保護者と話し合いをする機会をもっている。その際に園から幼児が今興味をもっていることや、学んでいることを資質・能力別に基づいて、多面的に伝えることで、保護者が我が子の育ちを具体的に知ることに繋がってきている。また、保護者が今までより小学校の学びへのつながりを意識することにも繋がっていると感じる。例えば、泥んこ遊びでもただ「楽しんでいます」だけでなく、泥団子でたくさん作って数に興味をもっている姿（数量→算数）、水の加減で形が変わることに興味を持っている姿（科学的→理科）等を具体的に伝えることで、どういった遊びが小学校につながっているのかを伝え、理解につながってきている。

b. 兵庫県内の幼児教育施設への研究協力依頼

研究協力園として協力を得るために重要なことは、本研究開発の意義についての理解を得るとともに、研究協力園としての取組自身が現場の先生方に大きな負担をかけることなく、資質・能力への理解を深め、保育の発信力を高める研修として取り組んでもらえるという利点についての理解を得ることであると考え、依頼を行い、協力について多くの承諾を得られてきている。

<第一年次>

実際に研究協力を得るためには、概ね次の3段階を経ることが必要であることが見えてきた。まず、第1段階は、教育委員会等各市町の幼児教育施設を所管する行政機関に、園長会、園所長会等各幼児教育施設の管理職が集まる会において話をさせてもらう機会を得るための理解を得る。次に、第2段階として、園長会、園所長会等各幼児教育施設の管理職が集まる会において、担任等実際に保育に従事している教諭、保育教諭、保育士に話をさせてもらう機会を得るための理解を得る。さらに、第3段階として、担任等実際に保育に従事している教諭、保育教諭、保育士に直接参画を呼びかける。一年次、第1段階は全て終え、第2段階についても約半分程度終えている。

<第二年次>

二年次には、第2段階で残っている市町の幼児教育施設の管理職の理解を得るとともに、担任等実際に保育に従事している教諭、保育教諭、保育士に話をさせてもらい、参画を呼びかけている。この段階まで進むと、管理職の理解を得られており、具体的な活用の仕方が、自分自身の資質向上に役立つと感じてもらえており、前向きに受け止めてもらえている。第2段階は全て終え、第3段階についても、7割程度終えている。三年次には、第3段階が未実施の市町に働きかけ、参画を呼びかけるとともに、必要に応じて追加の研修を実施する予定である。

6 今後の方向性と課題

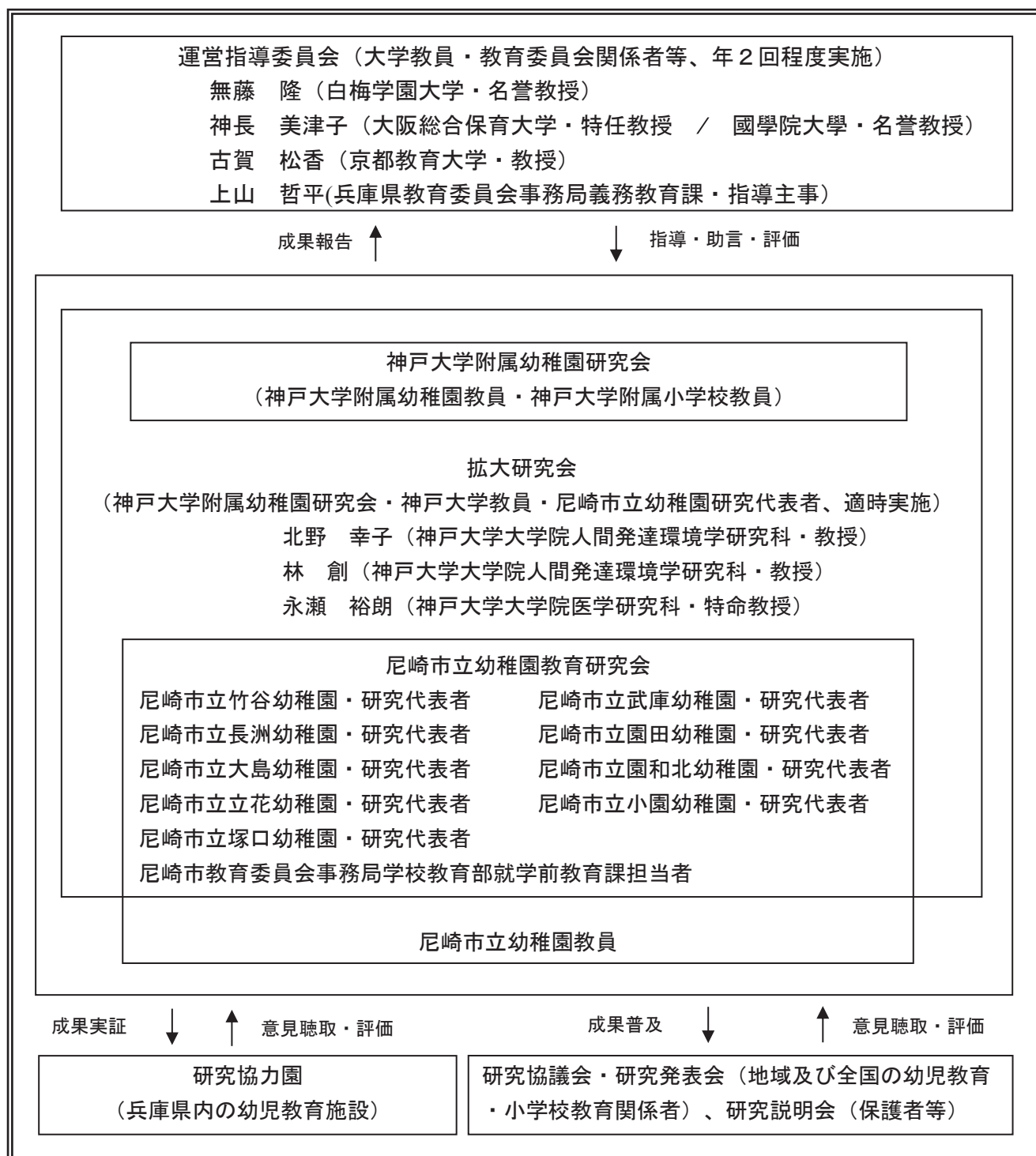
開発したカリキュラムについて、広く一般の保育者に分かりやすいように、満3歳児から5歳児までの資質・能力毎のねらい一覧を完成させ、さらに、「思考に関わる資質・能力」との関連を示す。また、幼稚園教育要領で示されているねらい及び内容や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を示すなど、理解や活用が広がる工夫を行っていく。

開発したカリキュラムによる保育実践を行い、実践データを収集するとともに、資質・能力の発揮、伸長に有効な手立てを、根拠を明らかにしながら集積する。収集、検証された資質・能力の発揮、伸長に有効な手立ての示し方の検討や手立ての整理を進めると同時に、開発したカリキュラムの妥当性について検証する。開発したカリキュ

ラムの検証については、小学校教員へのアンケートを実施し、小学校教員にとっての理解しやすさを実現しているかについても検証する。さらに、研究協力園へのアンケート調査を実施し、開発したカリキュラム活用による教師や子どもへの効果について検証する。

【研究組織】

(1) 研究組織の概要



(2) 研究担当者（研究主任の氏名には○印を付すること）

【神戸大学附属幼稚園】

職 名	氏 名	担当学年・担当教科
園長・副園長	田中 孝尚	
教 諭	○浅原 麻美	
教 諭	吉田 紘子	年少
教 諭	森 香奈子	年少
教 諭	松本 法尊	年中
教 諭	橋本 藍	年中
教 諭	沼田 祥子	年長
教 諭	高橋 梨花	年長

【尼崎市立幼稚園教育研究会】

職 名	氏 名	所属
園 長	廣瀬 身佳	尼崎市立竹谷幼稚園
園 長	野口 弥奈子	尼崎市立長洲幼稚園
園 長	小寺 英樹	尼崎市立大島幼稚園
園 長	保田 明子	尼崎市立立花幼稚園
園 長	伊藤 和子	尼崎市立塚口幼稚園
園 長	上田 晶子	尼崎市立武庫幼稚園
園 長	中根 孝介	尼崎市立園田幼稚園
園 長	日下 恵理子	尼崎市立園和北幼稚園
園 長	山崎 祥子	尼崎市立小園幼稚園
指導主事	泉 知恵	尼崎市教育委員会事務局学校教育部就学前教育課

(3) 運営指導委員会

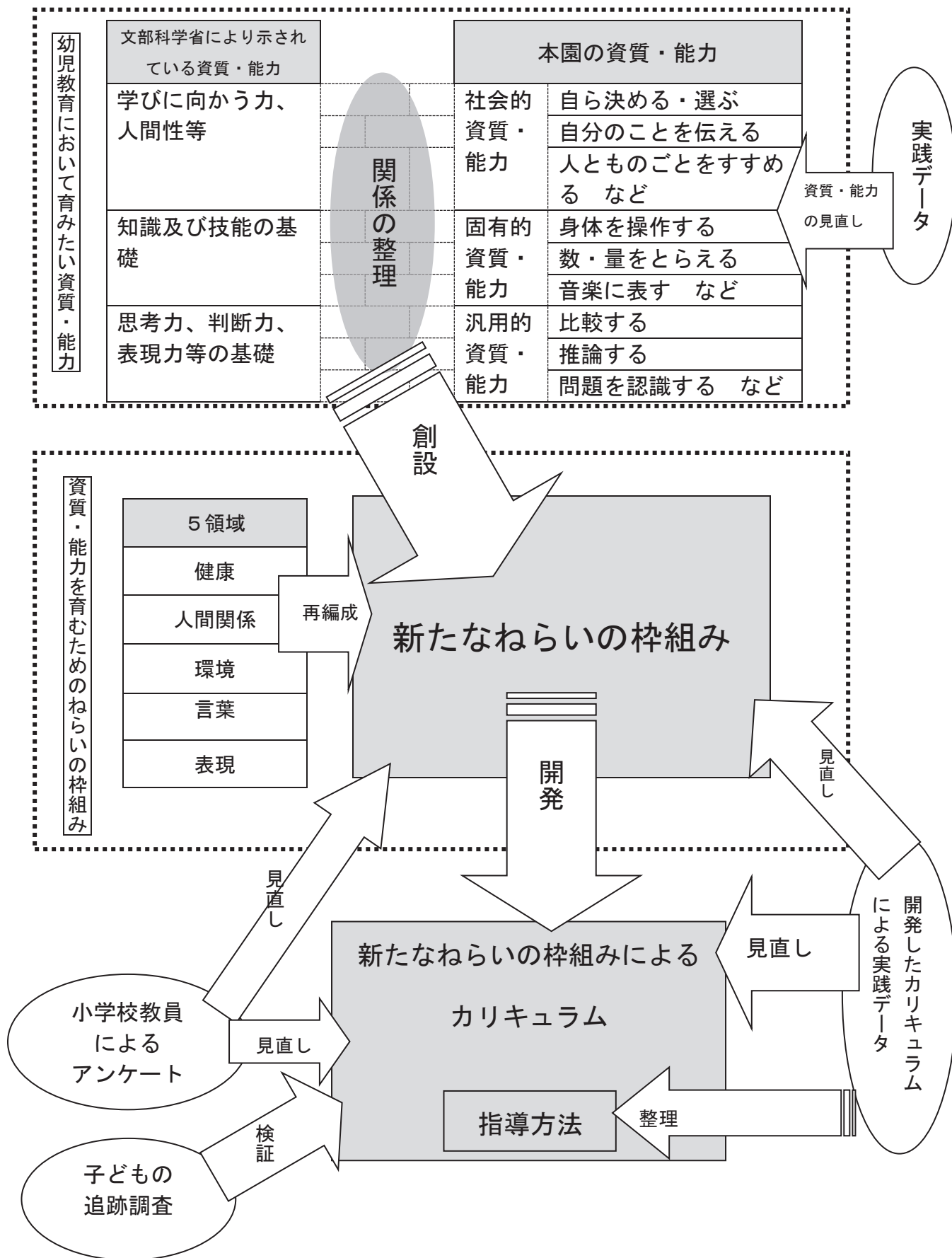
① 組織

氏 名	所属・役職等
無藤 隆	白梅学園大学・名誉教授
神長 美津子	大阪総合保育大学児童保育学部・特任教授
	國學院大學・名誉教授
古賀 松香	京都教育大学教育学部幼児教育科・教授
上山 哲平	兵庫県教育委員会事務局義務教育課・指導主事

② 活動計画

第2 年次	6月	・第2年次の研究計画について報告を行い、指導・助言を受ける。
	11月	・第2年次の研究成果について成果報告を行い、指導・助言・評価を受ける。
		・第3年次の研究の方向性について報告を行い、指導・助言を受ける。

研究の概要図



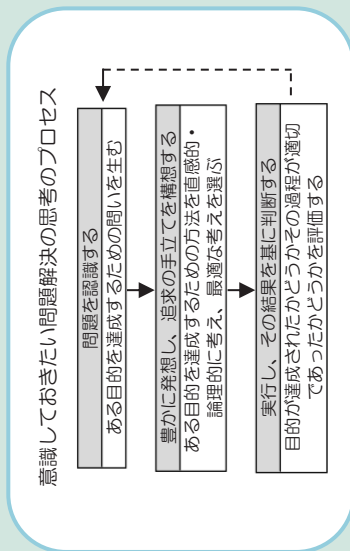
神戸大学附属幼稚園 カリキュラムにおける観点（令和8年1月現在）

神戸大学附属幼稚園の資質・能力：生涯にわたってよりよく生きるために必要な心や体の働きであり、個別に取り出し育て育むものではなく、遊びや生活を通して総合的に育まれるものである。

神戸大学附属幼稚園の資質・能力	資質・能力の具体	方向性
【資質・能力の具体】 方向性	【自分の生き方】 様々な関わり合いの中で、自分を見つめ、したいことやすべきことを自分で決め、よりよい生き方を目指そうとする	興味・関心をもって、目的や目標を定めたりして、好きになって関わったり、その実現に向けてやりのぞけようとする 自分の頑張りが成長、思いが実現したことに、嬉しさや満足感、達成感を感じる よりよい方向に向けて、自分の気持ちに折り合いをつけようとする 自分に意識を向け、自分の思いや状態、性格、言動の意味などに気付いたり、それを認めたり大切にしようとする 他者と関わる心地よさや嬉しさ、よさを感じて、つながりを大切にしようとする 他者に関心をもち、思いや考え、個性を認めようとする 自分の思いや考えを伝えたいと思い、行動や言葉で伝えようとしたり、伝えることのよさを感ぜたりする 他者に寄り添い、相手にとってよいと思うことをしようとする 人と共通の目的や目標に向かって、自分ができることをしようとしたり、見過しをもつて必要なことを決めたり、互いの役割を認識しながら責任を果たそうとしたりする 健康の保持・増進に関心をもち、必要なことを考え、自分ができることをしようとする 自分の状態や周囲の状況に意識を向け、安全に過ごせるよう考え、行動しようとする 体の感覚や動きに意識を向け、諸感覚を豊かにしたり、体を動かす楽しさやいろいろな動きの感覚を味わったり、状況に応じた体の使い方をしようとしたりする 空や雲、土、天体などの自然環境に関心をもち、その美しさや不思議さを感じたり、畏敬の念を抱いたりする 動植物など命あるものに関心をもち、その美しさや不思議さ、命の尊さを感じたり、大切にしようとしたりする 身の回りのものや事象に好奇心を抱き、それらの性質や特徴、仕組み、ものやこと同士の関係性を感ぜたり、見出そうとしたり、捉えようとしたり、その面白さや不思議さを感じたりする 数・量や形、位置や向きなどの空間を感じて、関心をもつたり意識を向けたり、それらに対する感覚を豊かにする 場や状況に意識を向け、過ごしやすいように整えたり作り出したりしようとしたり、快適さや心地よさを感ぜたりする 食べることや食べ物や育てたり加工したりすることの楽しさを感じたり、様々な食材や料理に関心をもち、食べようとしたりいろいろな味を楽しんだりする 物や時間、労力などの限りのあるものに意識を向け、効率的で無駄のない使い方を考え、大切に扱おうとする 施設や働く人の役割、社会の仕組みや文化に関心をもち、自分の関わり方を考え、行動しようとする 多様な外見や性別、文化や価値観などに関心をもち、理解を深めたり認めたりしようとする 色や形に表す 音に表す 言葉に表す 体や動きに表す 演出・構成する
	【他人とのつながり】 人と関わることを通して、他者の思いや考えに気付く、よりよい関係をつくろうとする	健康を保つ 身を守る 体の動きや感覚を磨く 自然環境を見つめる 生き物・命を見つめる 事物・現象を捉える 数・量や形、空間を捉える 場や状況を整える 食を見つめる 資源の活用を見つめる 社会とつながりをもつ 多様性を見つめる 色や形に表す 音に表す 言葉に表す 体や動きに表す 演出・構成する
	【健やかな身体】 身体の変化、周囲の状況に気付く、健康、安全に過ごそうとする	【暮らしの創造】 生活や文化、社会に意識を向け、暮らしを豊かにしていくために、考え、行動しようとする
	【感動・想像の表現】 思いやイメージが表されているものから思いを感ぜ取ったり、イメージをあげたり、自分らしく表すことを楽しんだりしながら、感性や創造性を豊かにする	【暮らしの創造】 生活や文化、社会に意識を向け、暮らしを豊かにしていくために、考え、行動しようとする

「思考に関する資質・能力」は、「人格に関する資質・能力」や「知性に関する資質・能力」と同時に発揮、伸長される。

神戸大学附属幼稚園の資質・能力	資質・能力の具体	方向性
思考に関する資質・能力	比較する	ものやことを具体物やイメージなどと一緒に照らし合わせ、観点をもち比べ、共通点や相違点を見付け出そうとする
	関連付ける	ものやことを、ある観点で共通点のあるものやことと結び付けようとする
	分類する	観点をもち、まとまりに分けようとする
	筋道立てる	この関係性を、筋を通して整理したり順序立てたりしようとする
	理由付ける	原因や理由、根拠を見付けたり、振り返って見出したりしようとする
	具体化する	ものやことをより具体的に捉えたり表したりしようとする
	抽象化する	ものやことを共通の特徴でまとめて捉えたり表したりしようとする
	焦点化する	目的に向けて、いろいろな要素から注目するところを絞り込もうとする
	多面的に見る	ものやことをいろいろな観点から捉えようとする
	批判的に考える	思考・判断に必要な考えや情報が確かかどうか確かめようとする
評価する	観点をもち、見聞きしたことや経験したことへの自分の意見をもつようとする	
総合する	複数の見聞きしたことや経験したこと、考えたことなどを基に、考えをまとめようとする	
推論する	見聞きしたことや経験したこと、考えたことなどの根拠を基にして予想しようとする	
発想する	目的に応じた新たな考えを思い付けたり生み出したりしようとする	



令和7年度 神戸大学附属幼稚園 入園から修了までのねらい一覧 (No.1) 令和7年10月現在

資質・能力の具現の姿とより	3歳児										4歳児										5歳児																														
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3																		
自分の生き方	自ら決める・選ぶ	したいと思ったり、好きなことを選んでたり、したいと思ったことをしたりする										好きなことやしたいことを意識して、選んだりしたりする										できるようになりたい、上手になりたい、こうしたいなどの具体的な目的をもって考えたり試したりして、何度も繰り返す										できるようにしたい、上手になりたい、こうしたいなどの具体的な目的をもって、上達や楽しさを意識しながら自分の力に合った目標を決めたり、目的に向けて見直しをもちたりして、考え続けたり、何度も試したりし、あきらめずにやり遂げようとする																			
	充実感を得る	したいことや必要なことができて嬉しいと思う					したいことや必要なことができたり、できるようにしたりして、嬉しいと思う					したいことができた、できるようになったり、自分の考えのよさを感じたりして、嬉しいと思ったり、自信をもちたりする					思いが実現したことや少しずつできるようになってきていること、自分の頑張りの、自分の考えのよさを感じて嬉しいと思ったり、自信をもちたりする					思いをもって続けてきたことや苦勞したことを振り返りながら達成感を感じたりして、自分の頑張りの自分や行動のよさ、前は違っていたことを振り返りながら達成感を感じたりして、自分の達成感を感じたりする					思いをもって続けてきたことや苦勞したことを振り返りながら達成感を感じたりして、自分の達成感を感じたりする					思いをもって続けてきたことや苦勞したことを振り返りながら達成感を感じたりして、自分の達成感を感じたりする																			
	気持ちやコントロールする	先生に手伝わしてもらって、自分の気持ちを落ち着かせようとする										自分なりの方法で、自分の気持ちを落ち着かせようとする										人の気持ちを聞いたり周りの状況を知らされたりして、気持ちを落ち着けたり、折り合いをつけたりしようとする										人の気持ちを聞いたり周りの状況を見たり感じたり自分で調整したり、自分の気持ちや考え、言動やその意図、状況、態度、向き合いなどを、自分で調整したりしようとする																			
	自分のことを知る	先生に尋ねられたり知らされたりして、自分の好きなことや気持ちに気付いたり、自分の成長や強弱を感じたりする										前からの変化から、自分の成長に気付いたり自分の強弱を感じたり、先生や友達に尋ねられたり知らされたりして、自分の気持ちや考え、言動や状態を、振り返りたり気付いたりする										友達や先生に言葉にしてもらったり認めってもらったりして、成長や強弱、気持ちや考え、言動やその意図、状況、態度、向き合いなどを、振り返りたり自覚したりする										友達や先生に言葉にしてもらったり認めってもらったりして、自分で振り返りたりして、成長や強弱、気持ちや考え、言動やその意図、状況、態度、向き合いなどを、自分で振り返りたりして、自分の成長や強弱、向き合いなどを、自覚したり認めたり大切にしたりしようとする																			
人とのつながり	他者への喜びを感じる	先生や友達に親しみをもったり、一緒にいる心地よさや触れられたいと感じたりする										気の合う友達や今まであまりかわりなかつた友達と一緒にいる心地よさや触れたいと感じたりする										気の合う友達や今まであまりかわりなかつた友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる										いろいろな人と一緒に生活したりする楽しさを感じる										いろいろな人と一緒に生活したりする楽しさを感じる									
	他者のことを知る	近くにいる先生や友達の存在を感じたり、知ろうとしたりする					気になる友達や先生のことを知ろうとしたり、友達や先生の好きなこと、素直なところなどに気付いたり、いろいろな友達や先生の態度や先生との関わりを知ろうとしたり、いろいろな人の存在に気付いたりする					いろいろな友達や先生のことを知ろうとしたり、いろいろな友達や先生の態度や先生との関わりを知ろうとしたり、いろいろな人の存在に気付いたりする					いろいろな友達や先生のことを知ろうとしたり、いろいろな友達や先生の態度や先生との関わりを知ろうとしたり、いろいろな人の存在に気付いたりする					いろいろな友達や先生のことを知ろうとしたり、いろいろな友達や先生の態度や先生との関わりを知ろうとしたり、いろいろな人の存在に気付いたりする					いろいろな友達や先生のことを知ろうとしたり、いろいろな友達や先生の態度や先生との関わりを知ろうとしたり、いろいろな人の存在に気付いたりする																								
	自分のことを伝える	先生や友達にしたいことやしてほしいこと、自分の気持ちを、行動や言葉で伝えようとする										友達に自分の気持ちを言葉や行動で伝えようとして、先生や友達に自分の話をしようとして、伝えることのよさを感じる										友達に自分の気持ちを言葉で伝えようとして、先生や友達に自分の話をしようとして、伝えることのよさを感じる										友達に自分の気持ちを言葉で伝えようとして、先生や友達に自分の話をしようとして、伝えることのよさを感じる																			
	他者のことを考えて行動する	先生や友達の様子を気にする										友達の様子を見たり、話を聞いたりして、気にする										友達の様子を見たり、話を聞いたりして、気にする										自分がかかわりたいのかがあって、友達のためになることをしようとする																			
	人と物事を進める	先生や友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる										友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる										友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる										友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる																			
		先生や友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる										友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる										友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる										友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる																			
健やかな身体	健康を保つ	健康に過ごすためにしたほうがいいことがあると知り、方法を聞いて、しようとする										健康に過ごすためにしたほうがいいこと、なぜしなければならないかを知り、しようとして、自分の体に興味をもちたりする										体や健康に関心をもったり、健康に過ごすために必要なことや必要な理由を知り、自分からしようとする										体や心の健康に関心をもったり、体の成長を喜んだり、健康に過ごすために必要なことや必要な理由が分かり、丁寧にしようとする																			
	身を守る	初めに出会う環境の中で、どうするに危険な状況になるかを、危険な方法を、その通りにしようとする					どうするに危険な状況になるかを、危険な方法を、その通りにしようとする					どうするに危険な状況になるかを、危険な方法を、その通りにしようとする					どうするに危険な状況になるかを、危険な方法を、その通りにしようとする					どうするに危険な状況になるかを、危険な方法を、その通りにしようとする					どうするに危険な状況になるかを、危険な方法を、その通りにしようとする																								
	体の動きや感覚を磨く	道具を使う中で、いろいろな体の動きや使い方を感じ、体を動かす楽しさや心地よさを味わう										新しい道具や用具で遊ぶ中で、いろいろな道具や用具で遊ぶ楽しさや心地よさを味わう										道具や用具で遊ぶ中で、いろいろな道具や用具で遊ぶ楽しさや心地よさを味わう										新しい道具や用具で遊ぶ中で、いろいろな道具や用具で遊ぶ楽しさや心地よさを味わう																			
	遊びや生活をする中で、体の感覚を働かせて様々な感覚を感じたり感じ分けたりする																																																		
ものの探究	自然環境を見つめる	身近な自然環境に、興味・関心をもったり、好奇心をいだいたり、驚き、面白さ、美しさ、不思議さ、心地よさ、厳しさを感じたりする																																																	
	生き物・命を見つめる	身近な動物を見たり触ったりして、色や大きさ、姿の変化に驚いたり、愛らしさを感じたり、世話の仕方を知り、世話してみようとする										身近な動物を見たり触ったりして、色や大きさ、姿の変化に驚いたり、愛らしさを感じたり、世話の仕方を知り、世話してみようとする										身近な動物を見たり触ったりして、色や大きさ、姿の変化に驚いたり、愛らしさを感じたり、世話の仕方を知り、世話してみようとする										身近な動物を見たり触ったりして、色や大きさ、姿の変化に驚いたり、愛らしさを感じたり、世話の仕方を知り、世話してみようとする																			
	事物・現象を捉える	身の回りのものを五感で感じたり、使ったり、使って遊んだりする中で、そのものの性質を感じたり楽しんだり、面白かったり、驚いたり、遊ばせようとする																																																	
	数・量や形、空間を捉える	数・量(数、長さ、重さ、大きさ)の多い少ないを感じたり、ものと対照させて数えたりして、数・量に親しむ										数えたり量えたりして、数・量(数、長さ、重さ、大きさ)の多い少ないを感じたり、ものと対照させて数えたりして、数・量に親しむ										数えたり量えたりして、数・量(数、長さ、重さ、大きさ)の多い少ないを感じたり、ものと対照させて数えたりして、数・量に親しむ										数えたり量えたりして、数・量(数、長さ、重さ、大きさ)の多い少ないを感じたり、ものと対照させて数えたりして、数・量に親しむ																			
高さ、広さ、距離、位置を身体で感じる																																																			
高さ、広さ、距離、位置を感覚で捉えようとする																																																			
高さ、広さ、距離、位置を感覚で捉えたり、操作したりしようとする																																																			
資質・能力の具現の姿とより	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3																		

令和7年度 神戸大学附属幼稚園 入園から修了までのねらい一覧 (No.2) 令和7年10月現在

資質・能力の 具体の まぼり	3歳児											4歳児											5歳児											
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	
書 い の 創 造	場や状況を整える	自分の周りが気持ちよく使いやすいようになる物の形や色や大きさを感じたり、手垢をつけてもらったりして、自分でしようとしていく											自分の周りが気持ちよく使いやすい場所が、気持ちよく使いやすい楽しく、また、したいことがしやすくなるような遊びや生活の場の整え方や物の形や色や大きさを感じたり、自分でしようとしていく											気持ちよく使いやすい楽しく、また、したいことがしやすくなるように、物の形や色や大きさを感じたり、自分でしようとしていく										
	食を見つめる	幼稚園やおやつを食べることを楽しみにする											幼稚園で先生やお友達、お家の人とおやつや弁当を食べる楽しさを感じたりする											食を食べることを楽しみにして野菜を育てたり、食べる物の楽しさを感じたり、いろいろな食材や料理に興味をもったり、自分で手を加えて食べられるようにしたり、いろいろな食べ物を喜んで食べようとしていく										
	資源の活用を見つめる	抱いたり、触れたり、教えてもらったりして、無駄にならない使い方をしようとしていく											見たり、触れたり、教えてもらったりして、無駄にならないと感じ、大切にしようとする											まだ使えるものを捨ててしまうことや必要以上に使うことをもたないと感じたり、取っておいこうとしていく										
	社会とつながりをもつ	幼稚園の施設や生活を教えてもらったり感じたりして、幼稚園がどんなところかを知る											幼稚園や園外保育先の施設、そこにある物やそこで使う物に興味・関心をもち、みんなの物であることやそれぞれの使い方をよさげにする理由を知る											施設の特徴を感じたり、施設や施設にある物を使う時にはきまりごとがあること知り、その意味が分かること、きまりごとを守って遊ぶことなどを知る										
	多様性を見つめる	身近な伝統行事に触れ、いろいろな行事があることを知る											身近な伝統行事や祝祭日、地域や海外の文化などに触れ、いろいろな行事や文化があることを知る											身近な伝統行事や祝祭日に触れ、日本の風習や生活の節目を感じたり、地域や海外の文化などに触れ、その違いを感じたり、面白かったり、大切にしようとしていく										
感 動 ・ 想 像 の 表 現	色や形を表す	絵に描かれたものや、生きたものを思いのままだり、思い描いたものや、しているうちに思い描いたものを描いたり作ったりする楽しさを感じたりする。また、色や形で表されたものを思いのままだりして描いたりする											描きたいもの、作りたいものを思い浮かべて、色や形を考えた描いたり作ったり、身近なものをいろいろな色に見立てたりする楽しさを感じたりする。また、色や形で表されたものを思いのままだりして描いたりする											描きたいもの、作りたいもの、遊びに必要なものを思い浮かべて、大きさや形、色、組み合わせ、質感などを考えたり、いろいろな素材を使ったり、友達や先生を思いのままだりして取り入れたりする楽しさを感じたりする。また、色や形、組み合わせ、質感で表されたものを思いのままだりして描いたりする										
	音を表す	聴いたり、歌ったり、体を動かしたり、音を聴いたりして、身の回りの音や歌、曲の響きやリズム、テンポ、メロディーを感じたり、想像を膨らませたりする											聴いたり、歌をうたったり、歌や曲に合わせて楽器を弾いたりして、身の回りの音や歌、曲の響きやリズム、テンポ、メロディー、曲調を感じたり、想像を膨らませたりする											身の回りの音や歌、曲の響きやリズム、テンポ、メロディー、曲調を感じたり、想像を膨らませたりして、歌をうたったり、体を動かしたり、楽器を弾いたりして、想像を膨らませたりする										
	言葉を表す	身近なものの名前や園生活で使う言葉、自分の気持ちを表す言葉を知ったり、使ったりする											言葉の意味を知ったり、知って使ったりする											自分の名前や文字、興味をもった見たり読んだりして、覚えておきたいことを書き留めるとよいことを感じたりする										
	言葉による表現	先生や友達と自分の言いたいことを自分の言い方で言ったりしようとする											先生や友達と自分の言いたいことを自分の言い方で先生に伝えてもらったり言いたいことを相手に伝えるために必要なポイントを見つけてもらったりしようとする											先生や友達と自分の言いたいことを自分の言い方で先生に伝えてもらったり言いたいことを相手に伝えるために必要なポイントを見つけてもらったりしようとする										
	言葉による表現	言葉のリズムや響きの心地よさや面白さ、擬音語・擬態語の音（おん）の面白さを感じる											言葉のリズムや響きの心地よさや面白さ、擬音語・擬態語の音（おん）や効果的な言い回しの表現の面白さを感じ、それを使って表現する楽しさを感じる											言葉のリズムや響きの心地よさや面白さ、擬音語・擬態語の音（おん）や効果的な言い回しの表現の面白さを感じ、それを使って表現する楽しさを感じる										
体や動きを表す	自分のなりたいものや動きなどを思い浮かべて、なって遊ぶことを楽しむ											自分のなりたいものや動きなどを思い浮かべて、友達や先生と一緒に思いのままだりして表現したり楽しんだりする											自分のなりたいものや動きなどを思い浮かべて、友達や先生と一緒に思いのままだりして表現したり楽しんだりする											
演出・構成する	自分の表現したいものに合う小道具や大道具、衣裳などを感じたり、それらを使ったり身につけて遊ぶことを楽しんだりする											自分の表現したいものや動きなどを思い浮かべて、友達や先生と一緒に思いのままだりして表現したり楽しんだりする											自分の表現したいものや動きなどを思い浮かべて、友達や先生と一緒に思いのままだりして表現したり楽しんだりする											
演出・構成する	絵本を見る、歌を歌う、なって遊ぶなどしながら、お話や役、遊びの設定や展開を思いのままだりして楽しむ											お話や役、遊びの設定や展開を考えた遊びを楽しむ感じたり、お話や役、遊びの設定や展開を思いのままだりして楽しむ											お話や役、遊びの設定や展開の効果を感じたり、それらを生かしてお話や遊びを作る楽しさを感じたりする											
資質・能力の 具体的な まぼり	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	
	3歳児											4歳児											5歳児											

【 研究 担 当 者 】

神戸大学附属幼稚園

園長・副園長	田中	孝尚
教諭	浅原	麻美
教諭	高橋	梨花
教諭	沼田	祥子
教諭	橋本	藍
教諭	松本	法尊
教諭	森	香奈子
教諭	吉田	紘子

(五十音順)

尼崎市立幼稚園教育研究会

園長	廣瀬	身佳	尼崎市立竹谷幼稚園
園長	野口	弥奈子	尼崎市立長洲幼稚園
園長	小寺	英樹	尼崎市立大島幼稚園
園長	保田	明子	尼崎市立立花幼稚園
園長	伊藤	和子	尼崎市立塚口幼稚園
園長	上田	晶子	尼崎市立武庫幼稚園
園長	中根	孝介	尼崎市立園田幼稚園
園長	日下	恵理子	尼崎市立園和北幼稚園
園長	山崎	祥子	尼崎市立小園幼稚園
指導主事	泉	知恵	尼崎市教育委員会事務局 学校教育課

【 研究 協 力 者 】

神戸大学大学院

教授	北野	幸子
教授	林	創
特命教授	永瀬	裕朗

神戸大学附属小学校

指導教諭	俣野	源晃
教諭	友永	達也
教諭	中上	はるな
教諭	森村	麻衣

(五十音順)